

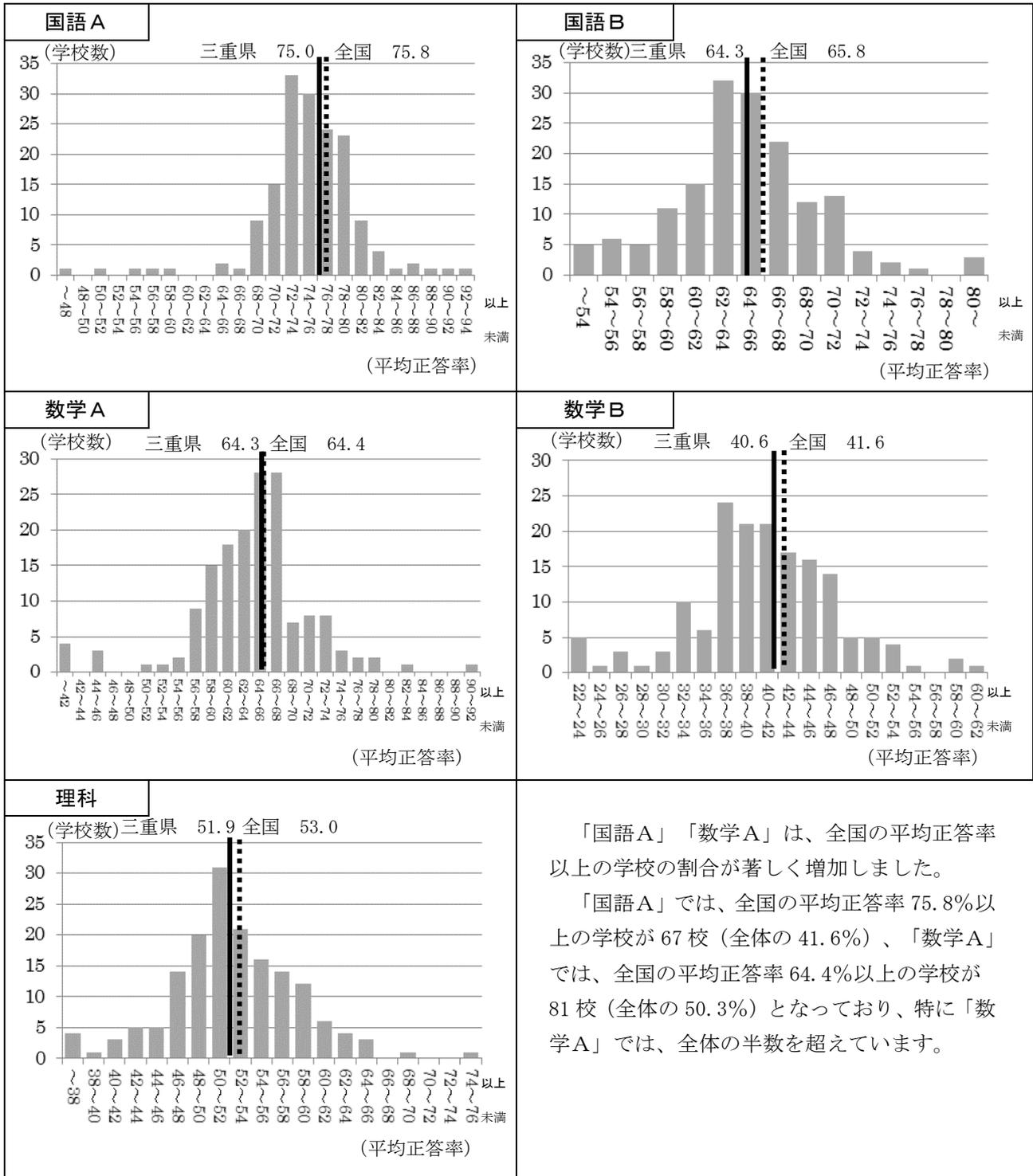
# 第5章 中学校詳細分析～教科に関する調査～

1

## 平均正答率による学校の分布

【関連：第2章P.10～】

学校ごとの分析を踏まえ、各学校の課題に応じた取組が必要です。



「国語A」「数学A」は、全国の平均正答率以上の学校の割合が著しく増加しました。

「国語A」では、全国の平均正答率75.8%以上の学校が67校（全体の41.6%）、「数学A」では、全国の平均正答率64.4%以上の学校が81校（全体の50.3%）となっており、特に「数学A」では、全体の半数を超えています。

2

正答数の度数分布

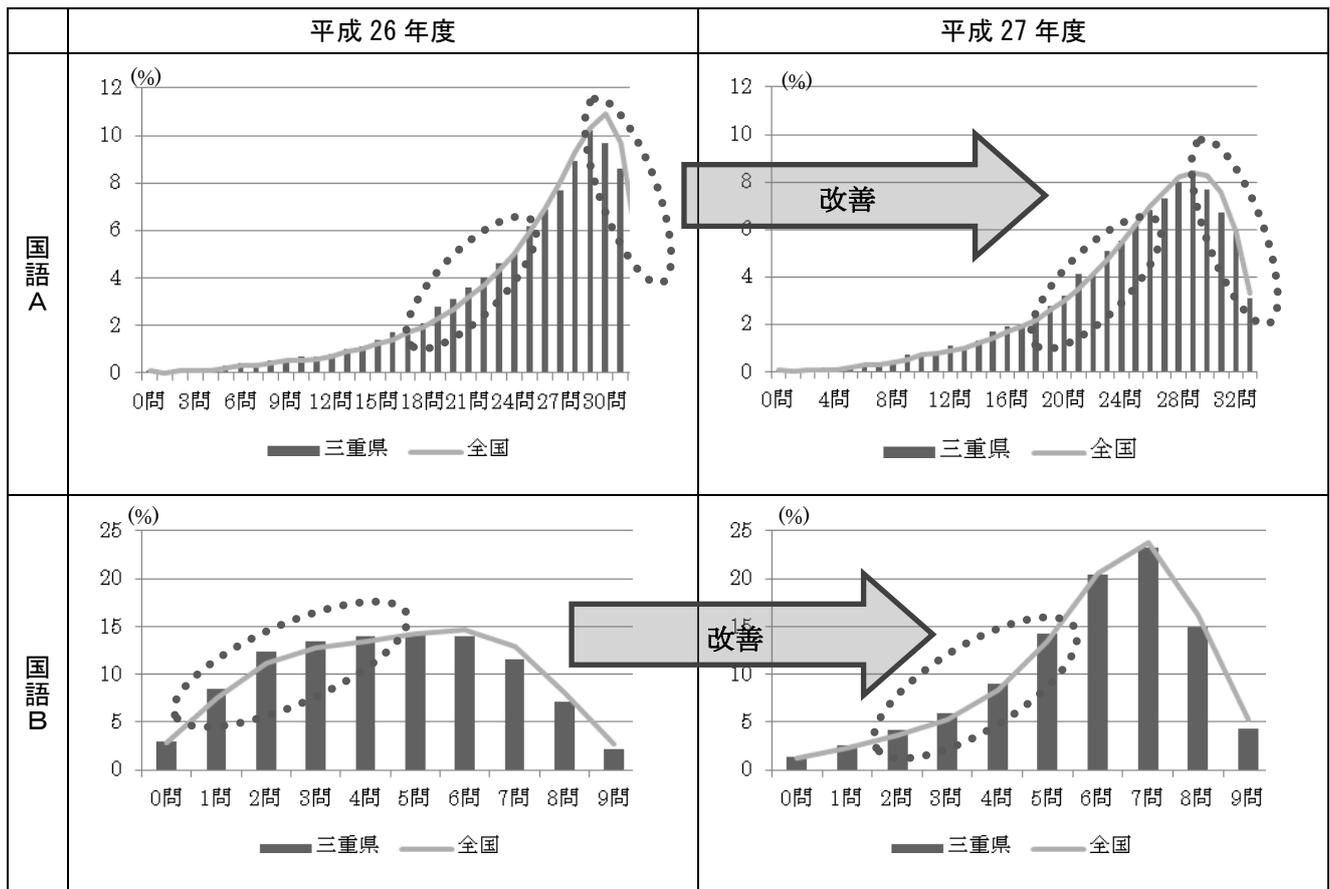
【関連：第2章P.11～】

正答数による度数分布グラフを各教科2か年分並べ、過年度からの変化を見ていきます。

国語

「国語A」「国語B」ともに、全国の分布とほぼ同じ形になっています。

「国語A」「国語B」ともに、全国の分布とほぼ同じ形になっており、正答数の割合において、全国との差が縮まり、やや改善されている傾向が見られます。「国語A」では、正答数が多い分布においてもやや改善が見られます。

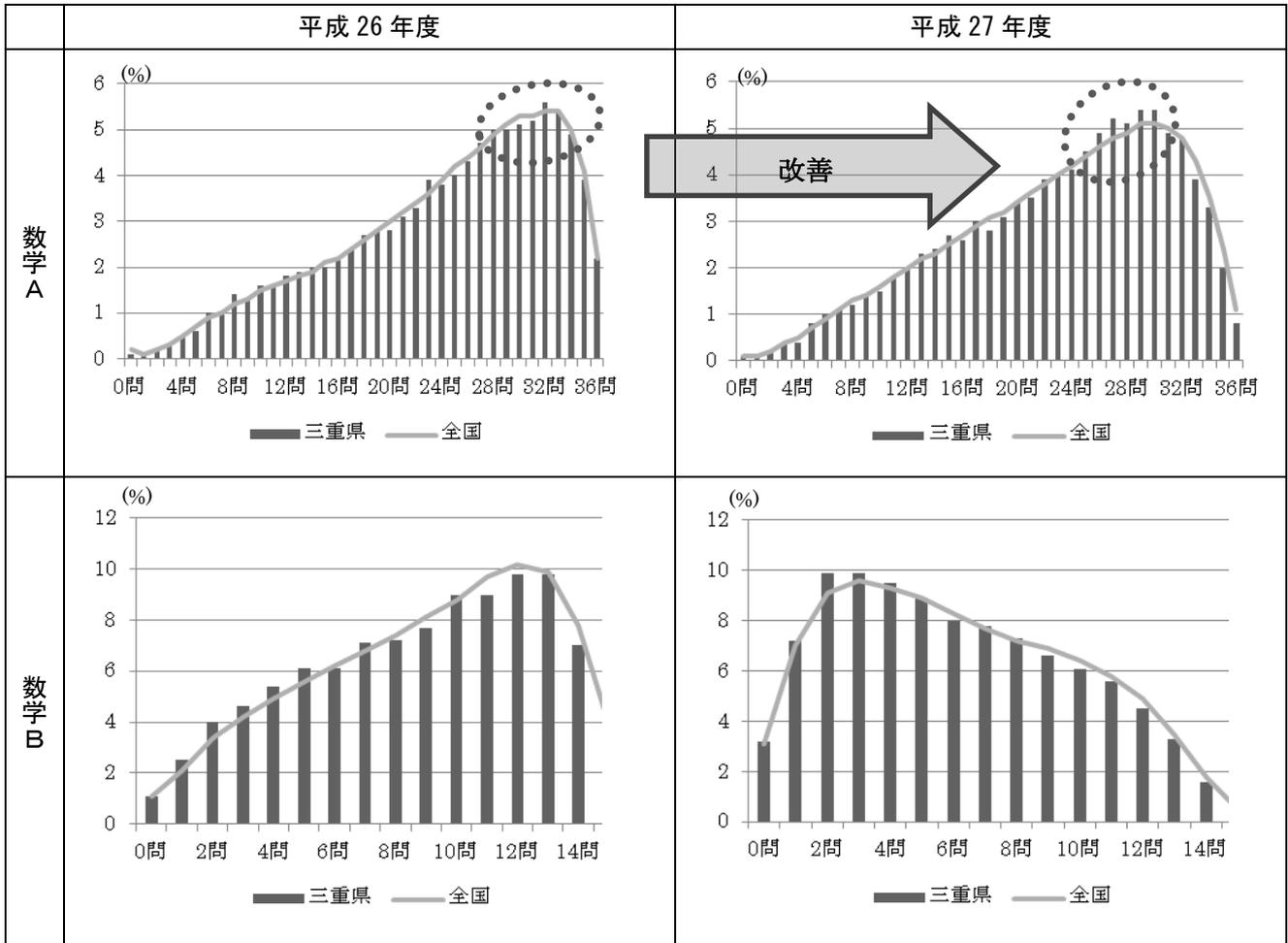


数学

**大きな変化はなく、全国の分布とほぼ同じ形になっています。**

全国と同様の分布となっています。

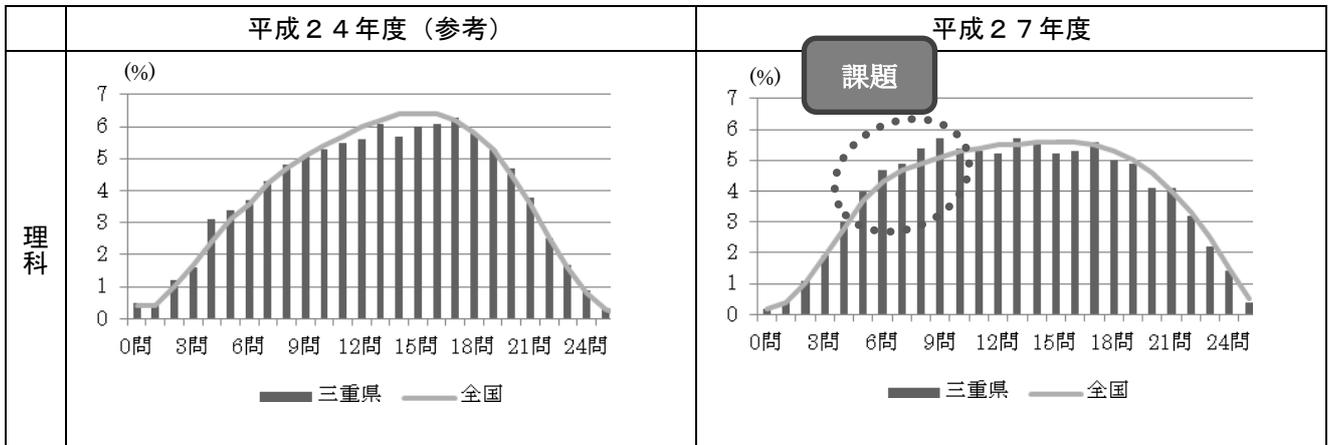
さらなる学力向上に向けて、特に記述式問題においては、数学的な表現を用いた理由の説明、図形の性質を用いた方法の説明等に課題があることから、授業で説明する活動を充実させることが大切です。



理科

**正答数の低い割合が全国と比べ、やや多い状況です。**

正答数が低い割合が全国に比べて、やや多く分布し、課題が見られます。



全体、観点、領域、問題形式ごとに全国の平均正答率との差をグラフに示しました。

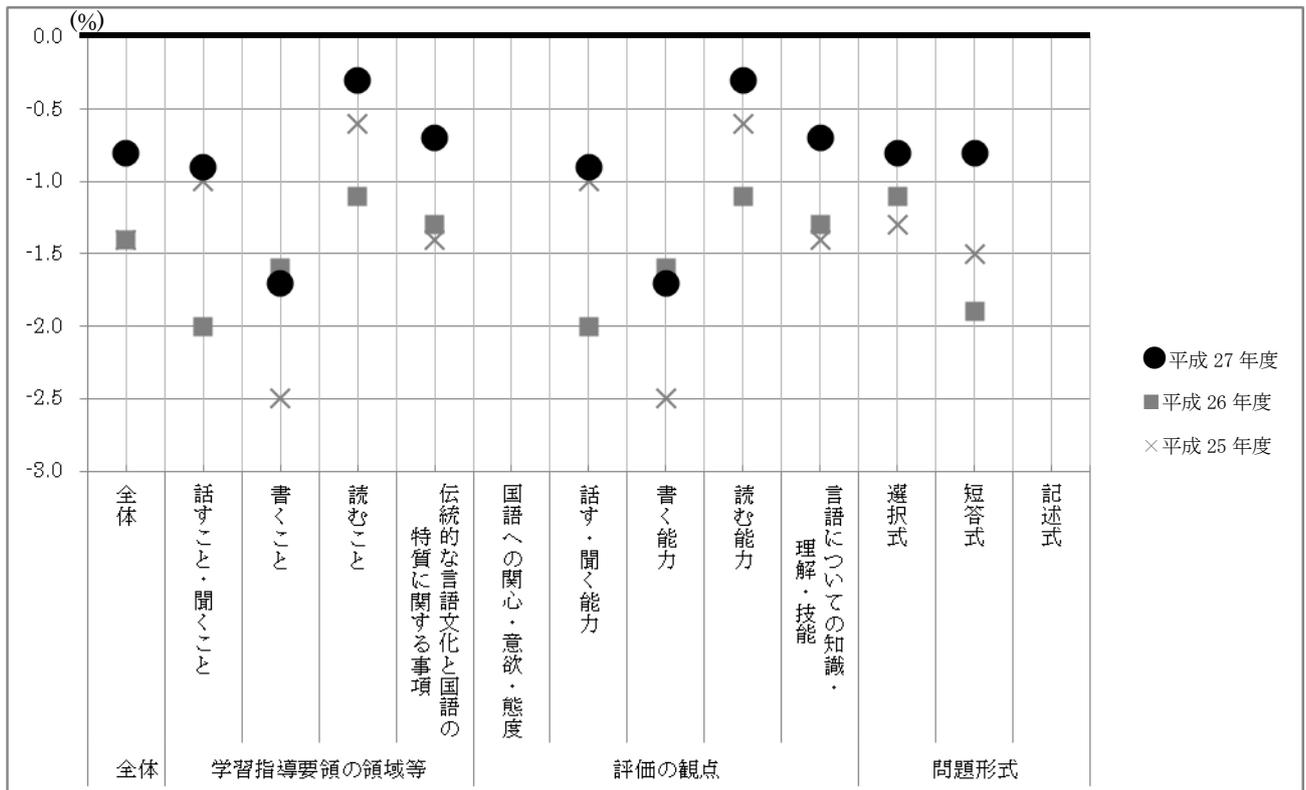
国語 A

領域、観点、問題形式別

**全般的に改善が見られる中、「書くこと」「書く能力」はやや課題が見られます。**

全般的に改善が見られ、特に「話す・聞く能力」について、大きく改善が見られます。一方、「書くこと」「書く能力」は、昨年度を下回っています。

小学校では、「書くこと」「書く能力」の改善が見られますので、小中の連携により指導の一貫性をより確実にすることが大切です。



※該当の出題がない年度には印がありません。

国語 A

設問別

**【よくできていた設問】**

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
3一	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	60.4	58.3	2.1
9三オ	適切な語句を選択する(たなびく雲の間から、春の光がもれている)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	51.4	49.0	2.4
9七2	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもつ	68.1	66.7	1.4

【課題があると考えられる設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
9二1	漢字を読む（詳細に述べる）	文脈に即して漢字を正しく読む	74.4	78.2	-3.8
9三エ	適切な語句を選択する（彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	63.0	70.8	-7.8
9六	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く	55.6	58.2	-2.6

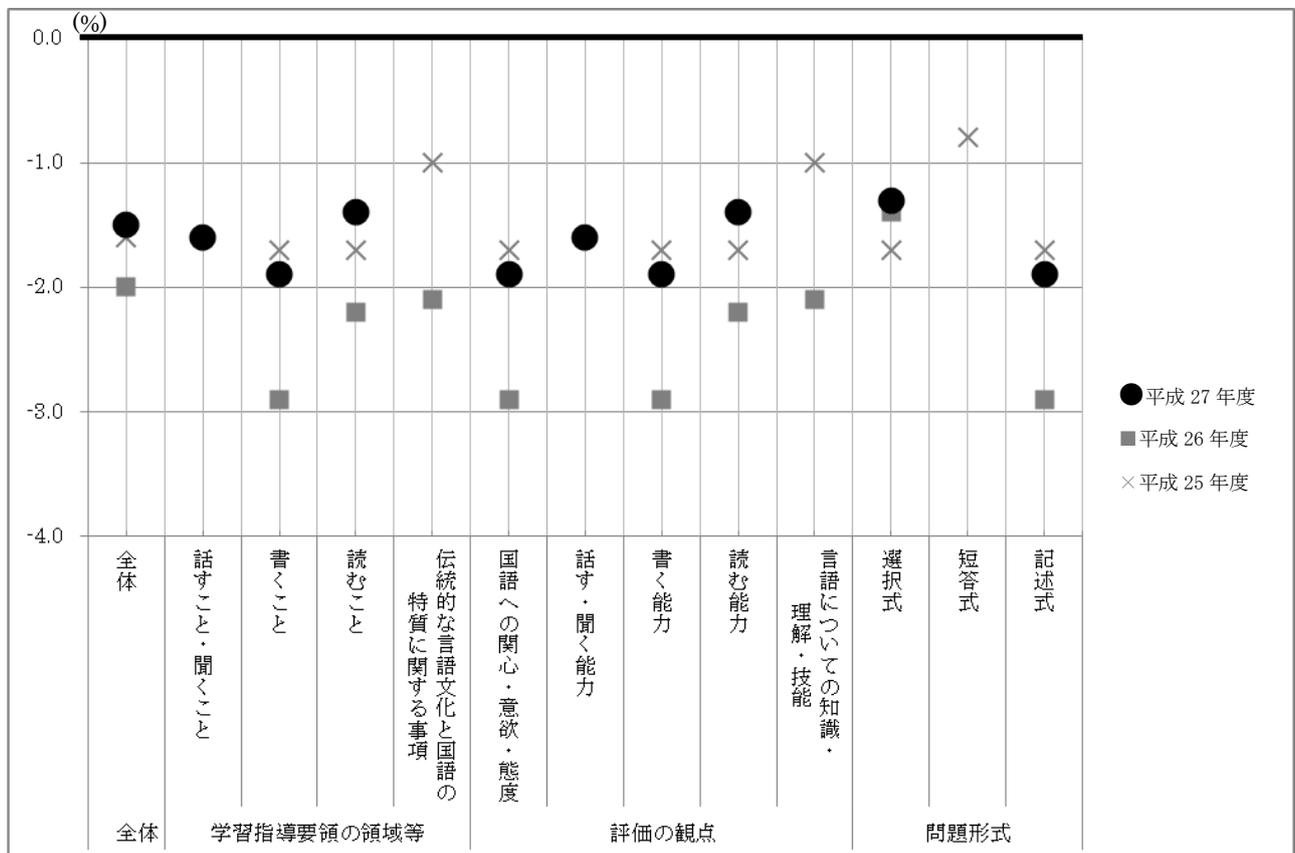
【よくできていた設問】、【課題があると考えられる設問】の全てが言語についての知識・理解・技能の問題です。

【よくできていた設問】は、文学的文章に関するものでした。【課題があると考えられる設問】は、論理的な文章で出てくる「詳細」の読み、慣用句、フォーマルな手紙の書き方など、言語に関する設問でした。

慣用句を正確に覚えるよう、日頃から慣用句を使う場面の設定や宿題等での取組を通して確実な定着を図ることが必要です。また、授業で扱う語句も、なぜそれを使うのか、なぜそれを選ぶのかなどを含めて理解を促すようにすることが大切です。

国語B 領域、観点、問題形式別

全ての領域、観点、問題形式に昨年度より改善が見られますが、まだ全国平均には至っていません。



※該当の出題がない年度には印がありません。

国語B

設問別

【よくできていた設問】

(全国平均正答率を上回った設問はありませんでした。)

【課題があると考えられる設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
1一	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	70.1	73.2	-3.1
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	20.9	23.0	-2.1
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	28.4	31.1	-2.7

<1一>

スピーチの際の発表用のノートに「発表の流れ」とともに「その他の情報」が書かれており、それらの情報は発表時のどのような状況において役立つかを、さまざまな複数の場面を想定して考える場面設定が必要です。

<2三・3三>

提示された複数の資料、複数の条件に従って文章をまとめる場面の設定が必要です。

「国語B」では、このように複数の資料が与えられ、そこから適切な情報を取り出し、複数の条件に従ってまとめる、というような解答のプロセスが必要な問題が多く出題され、より複雑な思考のプロセスが必要になります。

また、これらの力は充実した言語活動において培われていきます。

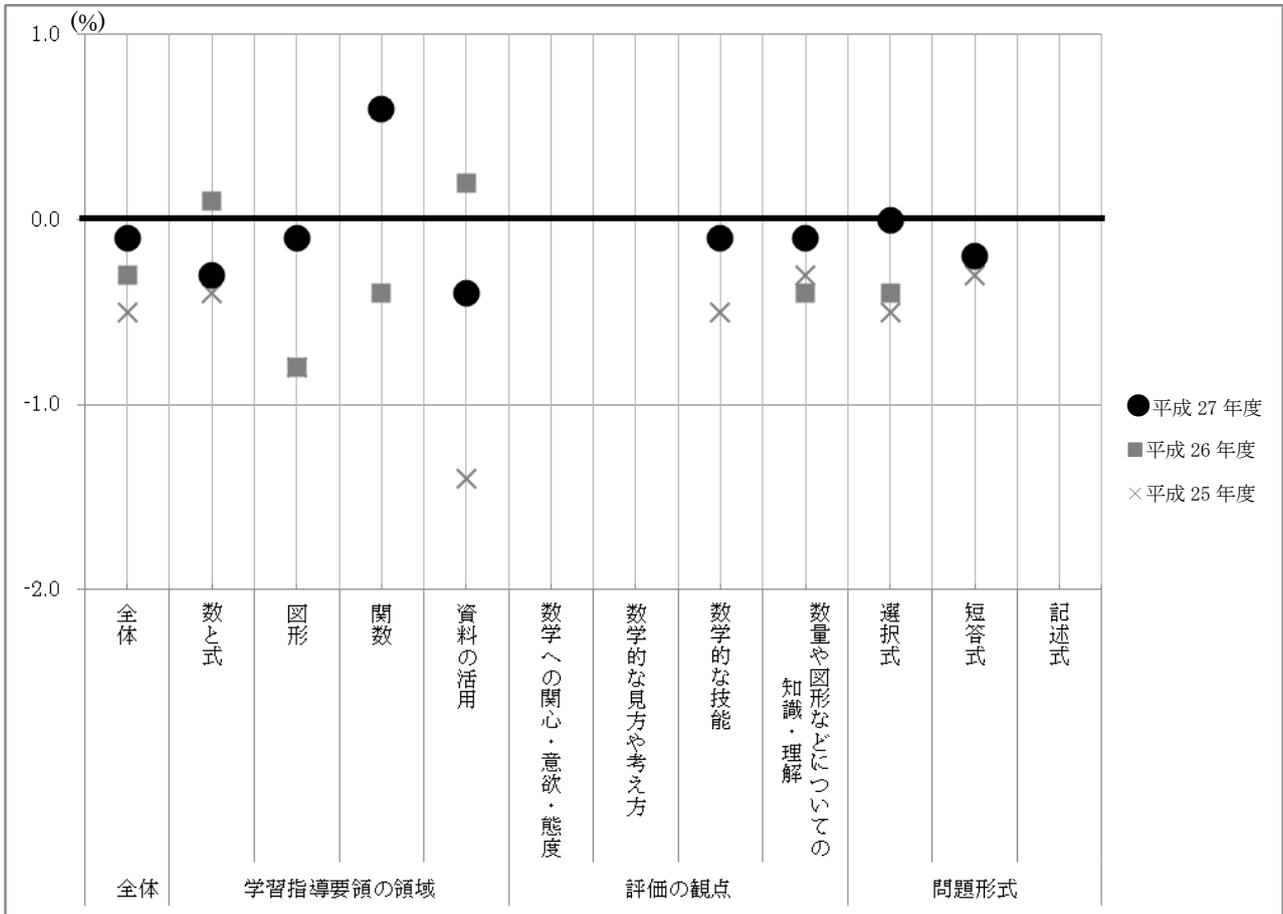
学校質問紙の「言語活動に重点を置いた指導計画の作成」「国語科だけでない言語活動の学校全体での取組」を「よく行っている」と回答した割合が全国よりも低い状況にあります。

学習指導要領においても、国語科だけでなく、他の教科等においても言語活動を充実させるように示されており、全ての教科での言語活動の充実を図る必要があります。

数学 A 領域、観点、問題形式別

**「関数」の領域の改善が見られ、全国平均を上回っています。**

「数と式」、「資料の活用」の領域では、昨年度より全国との差が広がり、課題が見られます。



※該当の出題がない年度には印がありません。

数学 A 設問別

**【よくできていた設問】**

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
3 (3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることのできる	47.3	44.9	2.4
7 (2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	78.4	76.1	2.3
15 (2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	58.0	55.4	2.6

【課題があると考えられる設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
1 (4)	ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	73.8	75.4	-1.6
2 (2)	赤いテープの長さが $a$ cm で、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを $a$ を用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	19.2	22.2	-3.0
14 (1)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	42.4	46.0	-3.6

設問番号7 (2) や設問番号15 (2) は、基礎的・基本的な知識・技能を問われている問題であり、また、設問番号3 (3) は文章で書かれたとおりに立式することができるかどうか問われている問題でした。これらの問題ができるということから、基礎的な事項の習熟の定着が見られます。

一方、文章から立式するのが難しく、何を文字で置くのかから考えなければならない設問番号1 (4) や、具体物の関係を考えてから立式しなければならない設問番号2 (2) は全国の平均正答率よりも低く、課題が見られます。

< 1 (4) >

実生活の様々な場面における数量や増減などを正の数と負の数を用いて表す場面を設定し指導することが必要です。その際、数直線上に表すなど、確認する活動を取り入れることが大切です。

< 2 (2) >

$(\frac{3}{5})a$  という解答の割合が全国の割合より高い状況です。テープの絵または線分図を描いたり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるよう指導することが必要です。

< 14 (1) >

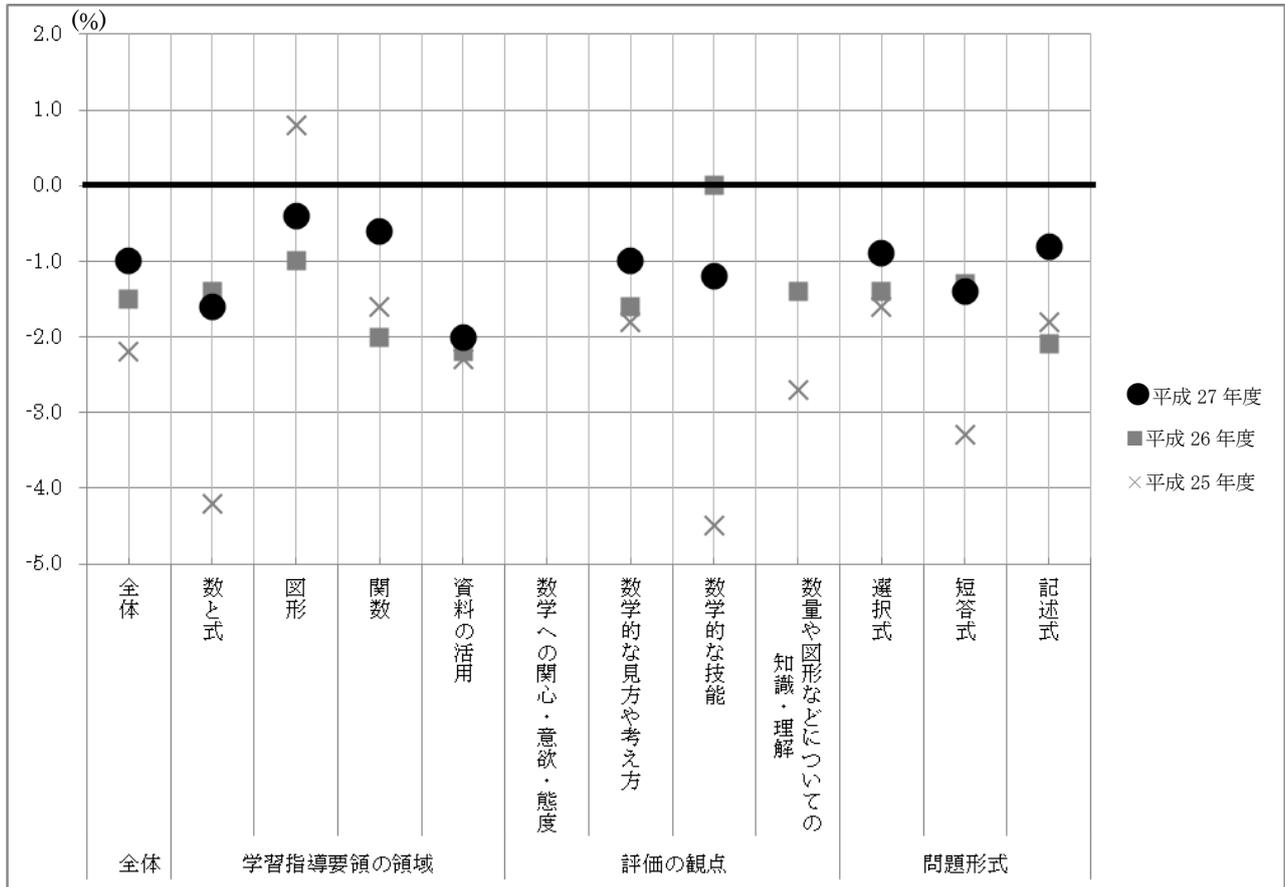
他の2問とは異なり、「中央値」という用語の理解が不足していると考えられます。

授業において、分布の形が様々な資料を題材として、資料の傾向を捉えるためにどの代表値を用いるとよいかを考察する活動を取り入れ、代表値の必要性和意味を理解し、適切な代表値を求めることができるよう指導することが必要です。

数学B 領域、観点、問題形式別

「関数」の領域や記述式に改善が見られるものの、「資料の活用」の領域は全国との差も大きく、課題が見られます。

「数学A」同様、「関数」の領域において改善が見られます。しかしながら、「数学A」同様、「資料の活用」の領域は全国との差も大きく、課題が見られます。また、「数学的な技能」については、全国との差が1%以上となり、昨年度を下回り、課題が見られます。



※該当の出題がない年度には印がありません。

数学B 設問別

【よくできていた設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
4 (2)	正方形 ABCD を平行四辺形 ABCD に変えても、 $AE = CF$ となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	50.7	49.6	1.1
6 (1)	中心角の大きさ $x$ と半径の長さ $y$ の間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における 2 つの数量の関係が比例であることを判断できる	47.8	46.5	1.3

【課題があると考えられる設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
1 (2)	投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる	33.1	35.1	-2.0

2 (1)	連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	76.8	78.8	-2.0
2 (3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	61.7	63.8	-2.1
5 (1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	37.1	39.1	-2.0
5 (2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	21.3	23.3	-2.0
5 (3)	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	65.2	67.3	-2.1

「数学A」同様、書かれていることがそのまま答えにつながる問題はよくできています。設問番号4(2)は正方形での証明に準じ、平行四辺形の特徴を使って証明する問題、設問番号6(1)は表または式から比例の関係にあることを読み取る問題です。基礎的な概念理解はできている状況です。

設問番号5(1)は、割合を求める式を答える問題で、小学校での学習事項です。この問題の正答率は37.1%(全国:39.1%)で、無解答率が26.4%(全国:26.8%)でした。シンプルな問題ですが、中学校範囲の学習ではあまり出合わない問題のためか、全国と比べても無解答率が高い状況です。中学校範囲の学習事項の定着はもちろん重要ですが、思考の基礎となるような小学校の学習事項も折に触れて復習する機会をつくるのが大切です。みえスタディ・チェックやワークシートは小学校範囲のものもホームページで閲覧できますので、活用し、基礎的な考える力が身についているか振り返り、確認することが大切です。

「数学A」で複数ステップで考えなければならない問題が苦手な状況は、「数学B」でも同じです。結論だけでなく、プロセスや理由・根拠を生徒に説明させ、学級で共有するような言語活動を日常的に行っていくことで、根拠を考えながら結論を導く習慣や、思考のプロセスを組み立てる力が身についていきます。

#### < 1 (2) >

目的に応じて必要な情報を選択できるよう、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れ、事象に即して数学を活用できるように指導することが必要です。

#### < 2 (1) >

「中央の整数の3倍」などの数量の関係を文字式に表すことができるよう指導することが必要です。また、「連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になる。」などのように、命題の形で表現することを指導することも大切です。そのうえで、その予想が他の連続する3つの整数でも成り立つかどうかを確かめ、「 $3 \times (\text{中央の整数})$ 」の形で表すことができるよう指導することが大切です。

#### < 2 (3) >

問題の条件を変えて見出した事柄について、その前提と結論の両方を明確にして表現できるよう指導することが必要です。

#### < 5 (2) >

ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え、適切な代表値を用いて説明する場面の設定や、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面の設定をし、指導することが必要です。

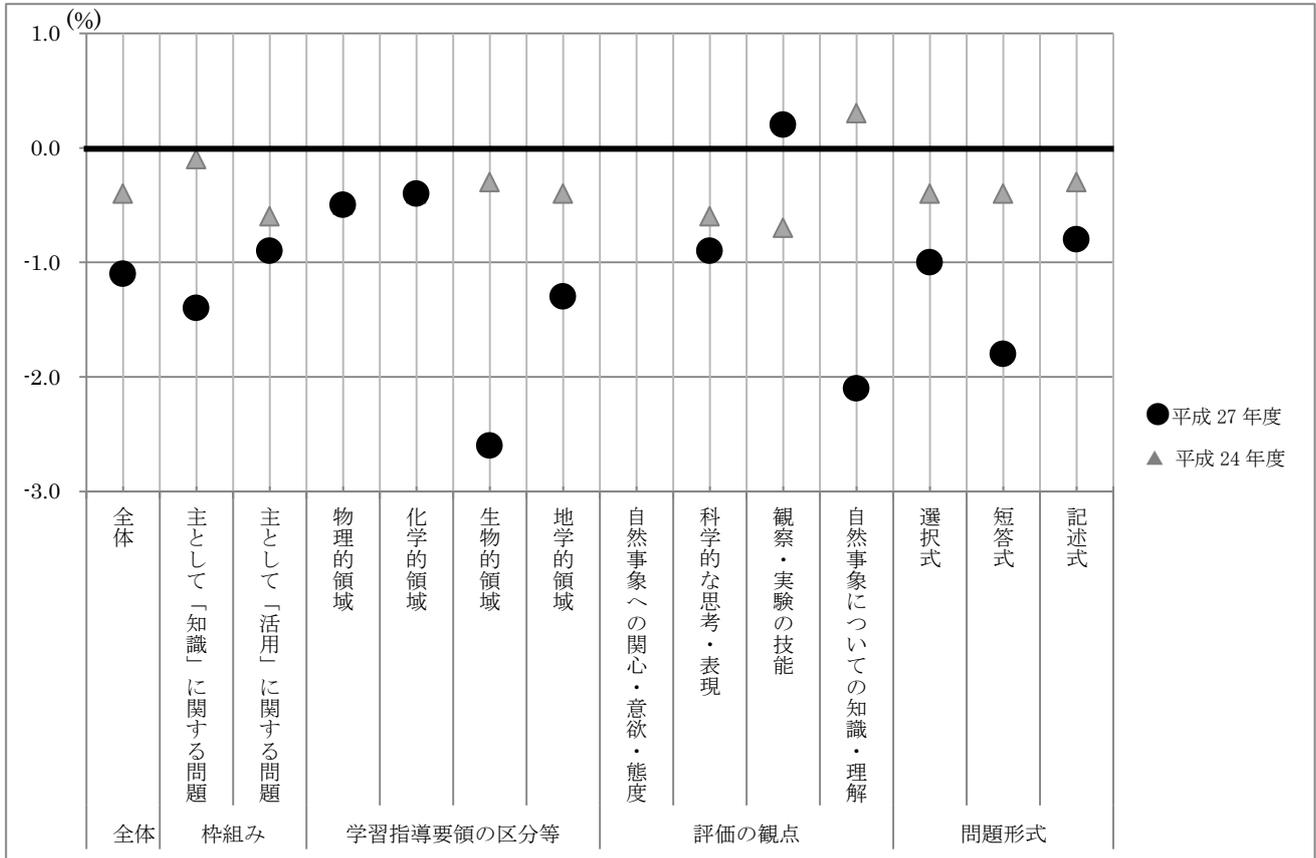
#### < 5 (3) >

日常生活の事象を数学的に表現し、その意味を解釈する場面を設定し、解釈したことを判断の根拠に用いることができるよう指導することが必要です。

理科 領域、観点、問題形式別

**全国の割合に比べて課題が見られます。**  
**1分野（物理的領域・化学的領域）よりも、2分野（生物的領域・地学的分野）に課題が見られます。**

抽出調査の平成24年度と比較して、全般的に平均正答率が下がっています。中でも生物的領域については、物理的領域、化学的領域に比べ、生物的領域に課題が見られます。



※該当の出題がない年度には印がありません。

理科 設問別

【よくできていた設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
1 (1) 濃度	濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	47.0	45.0	2
5 (2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる	57.1	56.8	0.3
6 (1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	41.3	40.1	1.2

【課題があると考えられる設問】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	三重県	全国	差
2 (4)	上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状態を推論する	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	59.7	62.2	-2.5
8 (1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	56.9	63.9	-7
8 (3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる	44.5	47.4	-2.9

「理科」の出題は、全て観察・実験をベースにしたものでした。物理的領域、化学的領域の平均正答率は、相対的に高かったものの、生物的領域、地学的領域では、全設問において全国の平均正答率を－1%以上下回っています。

学校質問紙の理科の観察・実験に関わる質問を見ると、「仮説をもとにした観察・実験計画、結果の分析、レポート作成方法」に関する全ての質問において、「よく行った」という回答が3%程度全国を下回っています。

観察、実験を通して科学的な思考力・表現力を付けていくことが重要です。

< 2 (4) >

与えられている情報から高度と気圧の関係を押さえることと、空気が減るということと気圧の関係を考えなければならない問題ですが、「下降中」の誤答が多く、資料を十分読めていないと考えられます。

< 8 (1) >

用語の知識・理解が不足しています。観察・実験の結果を比較して検討したり、関連して考察したり、事物・現象に固有な性質や多様性、共通点や規則性を見いだすことが大切です。

< 8 (3) >

課題や仮説に対応させて、実験結果に基づき、適切に考察を記述する練習を積み重ねていくことが大切です。

4

無解答率の分析

【関連：第2章P.24～】

**全国と同程度となっています。**

全体的には無解答率の状況は全国平均並みです。ただし、「国語B」の記述式の設問に関しては、全国平均の無解答率を上回っています。

		三重県	全国	差	全国平均より上回っている (課題がある)	
					設問数	比率
国語 A	選択式	0.57%	0.62%	-0.05	0/23	0.00%
	短答式	6.60%	7.05%	-0.45	1/10	10.00%
	合計	2.40%	2.57%	-0.17	1/33	3.03%
国語 B	選択式	0.35%	0.40%	-0.05	0/6	0.00%
	記述式	6.17%	5.90%	0.27	2/3	66.67%
	合計	2.29%	2.23%	0.06	2/9	22.22%
数学 A	選択式	0.76%	0.95%	-0.19	0/19	0.00%
	短答式	6.02%	6.82%	-0.80	0/17	0.00%
	合計	3.24%	3.72%	-0.48	0/36	0.00%
数学 B	選択式	1.05%	1.23%	-0.18	0/4	0.00%
	短答式	15.03%	15.65%	-0.62	1/4	25.00%
	記述式	22.64%	23.23%	-0.59	2/7	28.57%
	合計	14.85%	15.34%	-0.49	3/15	20.00%
理科	選択式	0.69%	0.80%	-0.11	0/15	0.00%
	短答式	12.38%	13.15%	-0.78	1/4	25.00%
	記述式	21.50%	21.90%	-0.40	1/5	20.00%
	合計	6.97%	7.25%	-0.28	2/24	8.33%

※問題形式別および全体について、設問ごとの無解答率を平均した数値です。

※網かけは、三重県のほうが全国に比べて無解答率が大ききなところを示しています。

●国語Bの記述式問題における平均正答率と平均無解答率との関係●

<国語Bの記述式問題>

設問	平均正答率			無解答率		
	三重県	全国	差	三重県	全国	差
1三	55.1	56.2	-1.1	2.8	2.8	0.0
2三	20.9	23.0	-2.1	3.9	3.7	0.2
3三	28.4	31.1	-2.7	11.8	11.2	0.6

<生徒質問紙(57)>

質問		最後まで で努力	あきら めた	書かな かった	その他	無回答
今回の国語の問題について、解答を文章で 書く問題がありました。どのように解答 しましたか	三重県	77.1	18.8	3.4	0.0	0.7
	全国	76.4	19.5	3.4	0.0	0.7
	差	0.7	-0.7	0.0	0.0	0.0

3問中全ての設問で平均正答率は全国を下回り、3問中2問で無解答率が全国を上回っています。全国との平均正答率の差は、全国平均無解答率の差よりも大きい状況となっています。

## 第6章 中学校詳細分析～学校質問紙～

1

### 結果の状況

【関連：第1章P.5～、第3章P.27～】

学校質問紙について、肯定的な回答をした学校の割合と全国の割合との差が5%以上のものについて、成果と課題として以下に挙げます。

#### 全国との比較

**【成果】調査結果の保護者等への情報共有、補充的な学習のサポート等に注力されています。**

分類	番号	質問	三重県	全国	差
調査結果の保護者等への情報共有	(52)	平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	95.6	83.9	11.7
学力向上に向けた取組	(24)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか(週に1回以上)	87.6	82.6	5.0
	(28)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)(延べ5日以上)	75.8	57.3	18.5
教員研修	(98)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	93.2	85.8	7.4
地域の人材・施設の活用	(80)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	64.0	58.8	5.2

**【課題】主体的な学びを引き出す授業づくり、個に応じた指導、家庭学習、理科の指導法に課題が見られます。**

分類	番号	質問	三重県	全国	差
指導方法・学習規律	(29)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	87.6	95.7	-8.1
	(31)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	79.5	86.7	-7.2
	(34)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導しましたか	67.7	81.9	-14.2

	(36)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	68.3	79	-10.7
	(38)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	72.0	78	-6.0
	(39)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	66.5	78.1	-11.6
個に応じた指導	(55)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	13.1	25.3	-12.2
	(56)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	8.7	19.8	-11.1
	(67)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	57.8	63.4	-5.6
地域の人材・施設の利用	(85)	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	59.0	69.7	-10.7
	(86)	保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	82.6	90	-7.4
家庭学習	(92)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／数学共通）	71.4	78.5	-7.1
	(94)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／数学共通）	77.6	85.7	-8.1
	(95)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	67.7	73.2	-5.5
	(97)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	81.4	87.9	-6.5
理科の指導方法	(71)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	82.6	88.1	-5.5
	(72)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	74.0	79.4	-5.4
	(73)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	59.6	65.8	-6.2

指導改善の状況

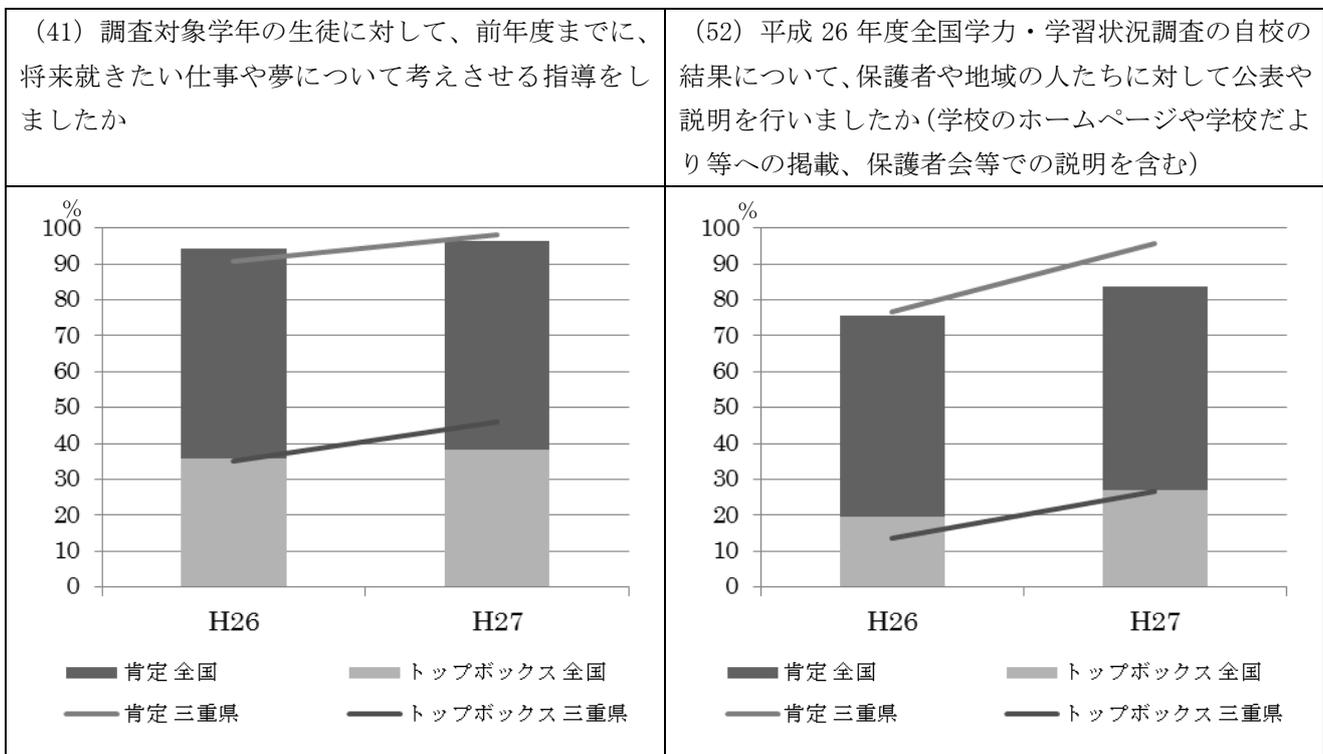
平成26年度と平成27年度の学校質問紙で同じ質問項目の結果を比較し、全体的に中学校でどのような指導改善に注力されているのかを確認します。

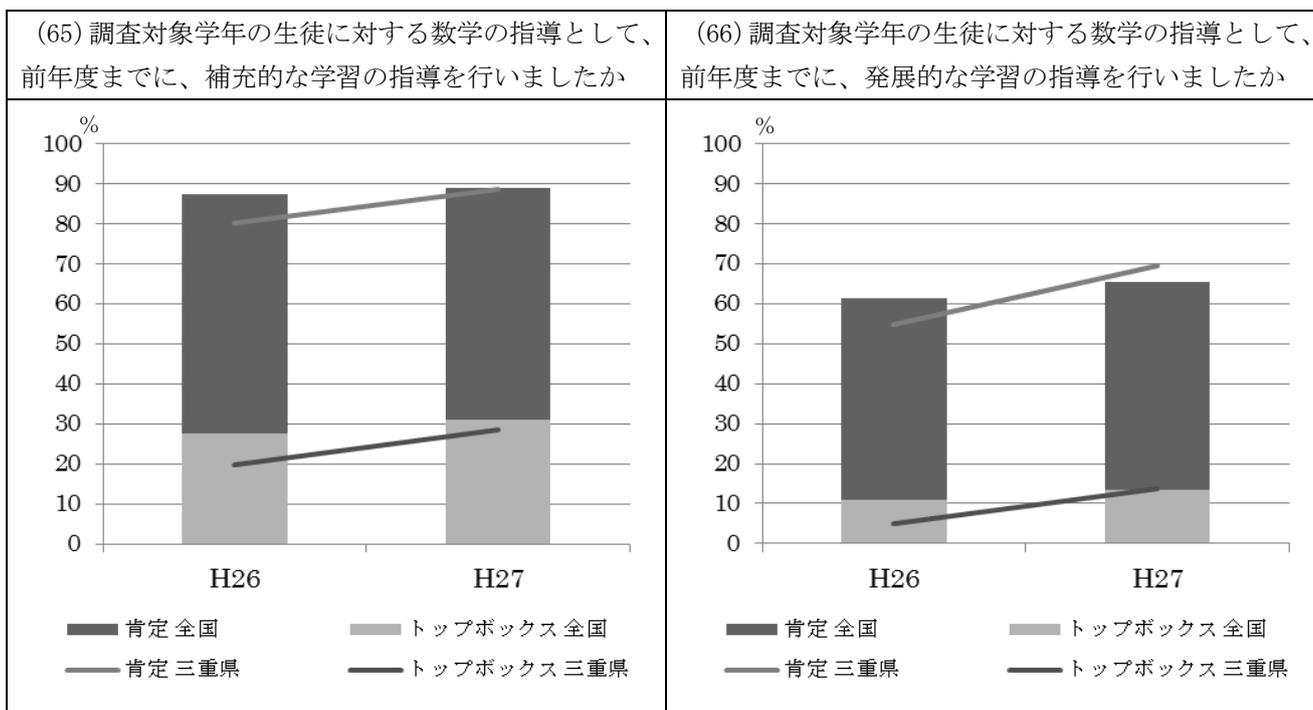
特に大きく変化したと考えてよいものとして、次の条件の全てに当てはまる質問を抽出しました。

- 肯定的な回答をした割合が5%以上向上したもの
- 特に力を入れたと考えられる「よく行った」などのトップボックスの割合が5%以上向上したもの
- 肯定的な回答をした割合の全国との差を5%以上縮めたもの
- トップボックスの割合の全国との差を5%以上縮めたもの

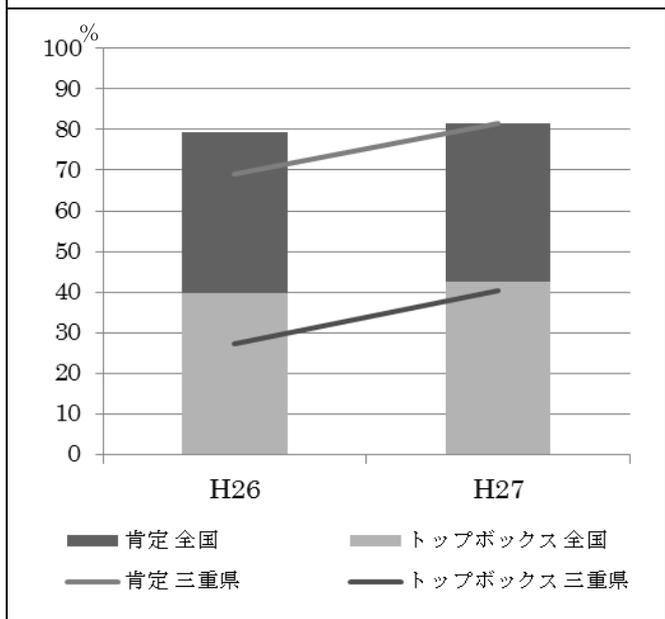
多くの項目で改善が見られました。

**【成果】全国学力・学習状況調査の保護者等への情報共有、校長の授業の見回りにおいて、大きく改善が見られます。**





(110) 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか（週2～3日程度以上）



◇◇◇調査結果を正面から受け止める◇◇◇

質問番号 (52) にあるように、全国学力・学習状況調査の結果を正面から受け止めて、事項の状況を保護者や地域の方と共有し、指導改善に活用するという姿勢が全国よりも高くなっています。コミュニティ・スクールや学校支援地域本部等の学校ボランティア組織が拡大していく中で、そこに関わる保護者や地域の方々にも生徒理解を深めていただく必要があります。

全国学力・学習状況調査の結果分析の共有は、地域とともによりよい学校づくりをしていくための一つの材料となります。

### ◇◇◇学習へのモチベーションの向上◇◇◇

中学生にとっては高校入試等の卒業後の進路決定という外発的動機付けが存在します。しかし本来は「これを学ぶのがおもしろい」「これを学ぶことが自分にとって必要だ」という内的な動機付けによって学習に向かうようにしたいところです。

キャリア教育は内的な動機を高める一翼を担っていることと無関係ではなく、質問番号(41)の「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」という質問への肯定的な回答率が大きく上がっています。特に、「よく行った」というトップボックスの回答率は、全国を7.9%上回っており、生徒のモチベーション向上に熱心な学校像が見て取れます。

### ◇◇◇数学の指導改革◇◇◇

質問番号(65)、(66)のグラフを見ると、数学の補足的な学習指導、発展的な学習指導のどちらもが強化されていることがわかります。

数学は学力が二極化しやすい教科ですのでどうしても全員に同じ学習指導ということだけでは不足してしまいます。一人ひとりの生徒の成長のために取組が強化されているところです。その成果として、「数学A」があとわずかで全国平均に届き、数学Bも年々全国平均に近づいてきています。

### ◇◇◇学校を挙げての取組◇◇◇

小学校と異なり、中学校の教員には担当教科があり、校長も自身の担当教科以外の授業で個別に指導をしていくことが難しい面もあります。しかし、教員の年齢構成の関係で、まだ経験の浅い教員も増加しており、日々の育成が重要になっています。

そのような中、大切なプロセスは、全国学力・学習状況調査等の結果も参考にして、教科を超えて、学校全体としてどのような生徒を育てていくのか、どのような力を育成していくのかを共有することです。

次の質問項目は、肯定的な回答の割合はあまり上昇していませんでしたが、「よく行った」というトップボックスの回答率が10%以上向上向上していたものです。

質問番号(51) 「平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

質問番号(106) 「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか」

質問番号(107) 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

質問番号(108) 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

これらのことにしっかり取り組む学校が増えたということがわかります。

学校を取り巻く課題が複雑化してきており、一人の教員だけでは解決できない状況もあります。そのような中で「学校全体」で課題を共有し、教員がチームとしてその課題を解決していくことはとても重要なことです。

課題やその解決のための施策・目標を教職員間で共有(P)したうえで、責任者である校長が、その施策が適切な手法で実施(D)され、効果が出ているのか、施策としての選択は適切であったのか、経験の浅い先生に対するサポートは必要ないか、施策の見直し・調整は必要ないか(C)、等を自らの目で見て回り、必要に応じて改善を図る(A)ことが大切です。

**【課題】直近の課題解決だけにとらわれず、先も見据えた取組が必要です。**

<p>(36) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか</p>	<p>(39) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか</p>																														
<table border="1"> <caption>Question (36) Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>肯定全国 (%)</th> <th>肯定三重県 (%)</th> <th>トップボックス全国 (%)</th> <th>トップボックス三重県 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>~52</td> <td>~18</td> <td>~10</td> <td>~20</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>~50</td> <td>~18</td> <td>~10</td> <td>~20</td> </tr> </tbody> </table>	Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)	H26	~52	~18	~10	~20	H27	~50	~18	~10	~20	<table border="1"> <caption>Question (39) Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>肯定全国 (%)</th> <th>肯定三重県 (%)</th> <th>トップボックス全国 (%)</th> <th>トップボックス三重県 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>~60</td> <td>~10</td> <td>~8</td> <td>~22</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>~60</td> <td>~12</td> <td>~6</td> <td>~22</td> </tr> </tbody> </table>	Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)	H26	~60	~10	~8	~22	H27	~60	~12	~6	~22
Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)																											
H26	~52	~18	~10	~20																											
H27	~50	~18	~10	~20																											
Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)																											
H26	~60	~10	~8	~22																											
H27	~60	~12	~6	~22																											
<p>(94) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語/数学共通)</p>	<p>(101) 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか(年間11回以上)</p>																														
<table border="1"> <caption>Question (94) Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>肯定全国 (%)</th> <th>肯定三重県 (%)</th> <th>トップボックス全国 (%)</th> <th>トップボックス三重県 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>~55</td> <td>~20</td> <td>~10</td> <td>~15</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>~55</td> <td>~25</td> <td>~10</td> <td>~15</td> </tr> </tbody> </table>	Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)	H26	~55	~20	~10	~15	H27	~55	~25	~10	~15	<table border="1"> <caption>Question (101) Data</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>肯定全国 (%)</th> <th>肯定三重県 (%)</th> <th>トップボックス全国 (%)</th> <th>トップボックス三重県 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>~8</td> <td>~15</td> <td>~5</td> <td>~14</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>~8</td> <td>~10</td> <td>~5</td> <td>~14</td> </tr> </tbody> </table>	Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)	H26	~8	~15	~5	~14	H27	~8	~10	~5	~14
Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)																											
H26	~55	~20	~10	~15																											
H27	~55	~25	~10	~15																											
Year	肯定全国 (%)	肯定三重県 (%)	トップボックス全国 (%)	トップボックス三重県 (%)																											
H26	~8	~15	~5	~14																											
H27	~8	~10	~5	~14																											

質問番号(36)、(39)は共通した動きを示しています。いずれもいわゆるアクティブ・ラーニングに関わる項目です。次期学習指導要領の検討の中で、このような活動をさらに重視する考えが示されています。「総合的な学習の時間」や全教科等での言語活動重視の流れの中で、県内も全国も、「よく行った」と回答した学校の割合は、若干ではありますが増えています。

関連して、質問番号（101）について、教科担任制である中学校で授業研究を伴う校内研修を頻繁に行うことは困難ではありますが、次期学習指導要領の検討の中では汎用的な力の育成が重視されています。生徒にどのような力を付けるのかを考えたときには担当教科を超えた授業研究が必要になってきます。今後、中学校での校内研修において、どのように教科を超えた授業研究を取り入れていくか、研究が必要です。

内容的な関連はないように思われますが、質問番号（94）も質問番号（36）、（39）のグラフと同じような動きを示しています。家庭学習の取組は、探究活動や資料を使った発表と同様に、力を入れている学校は増加傾向（トップボックス）にあります。全体としてはやや下降傾向と言えます。つまり、重要な事項ではあるが、改善するに至っていない学校が多い、と考えられます。各校が自校の状況に応じて優先順位を付けて考えている証拠でもあり、必ずしもよくない状況だとは言えません。今後のトップボックスのさらなる伸びと、全体での家庭学習に関する意識の向上を図っていく必要があります。

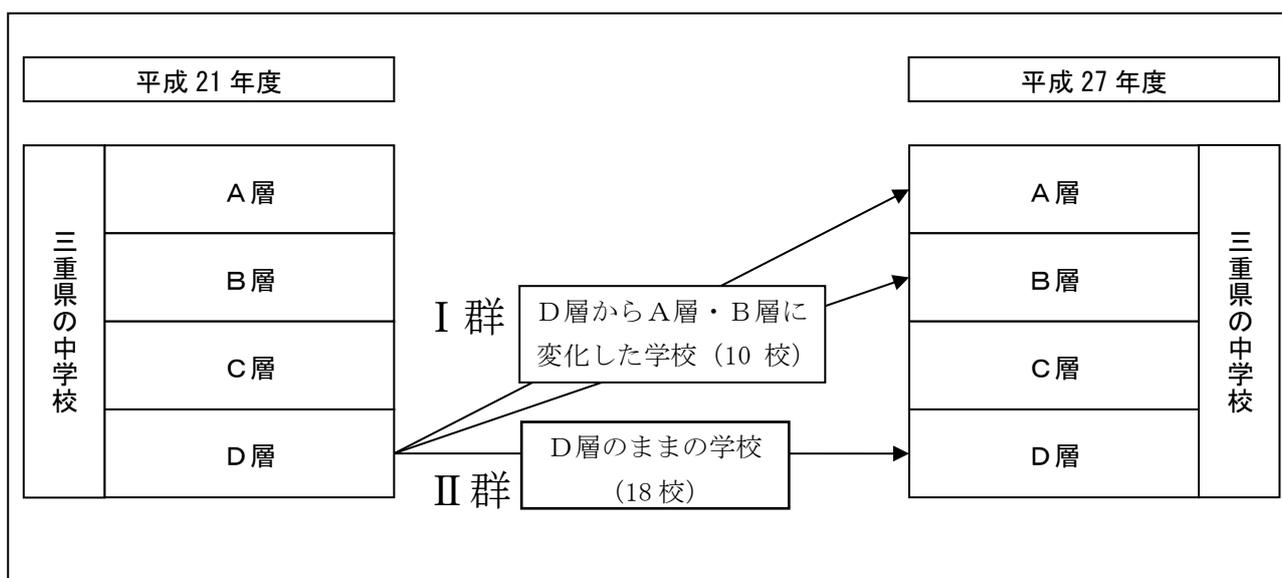
2

学力向上のための優先課題

【関連：第3章P.32～】

学校においては、個々に置かれた環境が異なり、構成する教職員や生徒もそれぞれで異なります。

ここでは、平成21年度と平成27年度の調査結果における教科に関する調査の平均正答率の状況から、中学校を4つの層に分けて、学校質問紙の結果を比較分析します。



分析は、I群の学校質問紙の回答状況で肯定的な回答率が5%以上向上した質問項目を抽出し、それらの質問項目について、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。

下の表は、太枠で囲った列の値の昇順で並べています。

番号	質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出)	I群			II群			I群-II群
		H21	H27	差	H21	H27	差	H27
(81)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	33.3%	33.3%	-13.3%
(42)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	60.0%	70.0%	10.0%	61.1%	83.3%	22.2%	-13.3%
(55)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか(授業の1/2以上)	0.0%	10.0%	10.0%	27.8%	22.2%	-5.6%	-12.2%
(100)	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	60.0%	80.0%	20.0%	94.4%	88.9%	-5.6%	-8.9%
(38)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	50.0%	70.0%	20.0%	66.7%	77.8%	11.1%	-7.8%
(102)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	80.0%	90.0%	10.0%	77.8%	94.4%	16.7%	-4.4%
(85)	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	40.0%	80.0%	40.0%	38.9%	83.3%	44.4%	-3.3%
(66)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	50.0%	60.0%	10.0%	22.2%	61.1%	38.9%	-1.1%
(27)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(学期に数回程度以上)	0.0%	10.0%	10.0%	11.1%	11.1%	0.0%	-1.1%
(25)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか(学期に数回程度以上)	0.0%	50.0%	50.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
(44)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか	90.0%	100.0%	10.0%	83.3%	100.0%	16.7%	0.0%
(17)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	90.0%	100.0%	10.0%	83.3%	100.0%	16.7%	0.0%
(18)	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか	70.0%	90.0%	20.0%	61.1%	88.9%	27.8%	1.1%
(56)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか(授業の1/2以上)	0.0%	10.0%	10.0%	16.7%	5.6%	-11.1%	4.4%
(84)	P T Aや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか	80.0%	100.0%	20.0%	88.9%	94.4%	5.6%	5.6%
(89)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	80.0%	90.0%	10.0%	83.3%	83.3%	0.0%	6.7%
(16)	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	70.0%	90.0%	20.0%	72.2%	83.3%	11.1%	6.7%
(65)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	80.0%	90.0%	10.0%	77.8%	77.8%	0.0%	12.2%

(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	90.0%	100.0%	10.0%	83.3%	83.3%	0.0%	16.7%
(24)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか（週に複数回以上）	80.0%	90.0%	10.0%	94.4%	72.2%	-22.2%	17.8%
(67)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	50.0%	70.0%	20.0%	44.4%	50.0%	5.6%	20.0%
(82)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	0.0%	20.0%	20.0%	16.7%	0.0%	-16.7%	20.0%
(87)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	70.0%	100.0%	30.0%	66.7%	77.8%	11.1%	22.2%
(110)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか（週2～3回程度以上）	80.0%	100.0%	20.0%	61.1%	77.8%	16.7%	22.2%
(39)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	60.0%	90.0%	30.0%	38.9%	44.4%	5.6%	45.6%

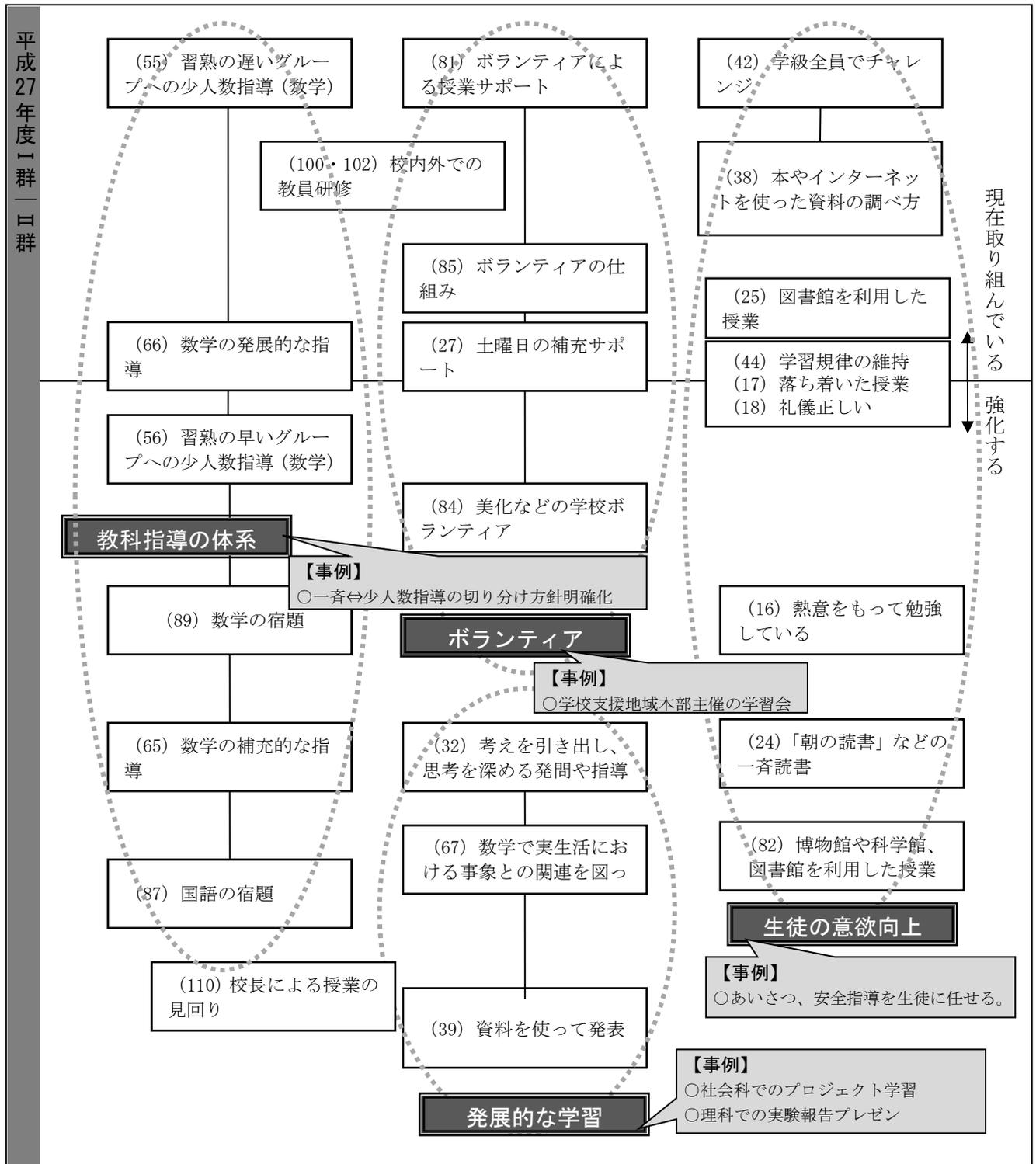
### 《結果より》

I群とII群との間で取組の差が大きかった（I群で効果が大きかった）と考えられる項目

- ・資料を使って発表ができる指導
- ・校長の見回り
- ・国語の指導として家庭学習の課題（宿題）の提供
- ・図書館等を利用した授業
- ・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業や、補充的な学習の指導
- ・一斉読書の時間の設定（朝の読書など）
- ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導 等

これらの項目は、授業における生徒の主体的な学習の実現に向けて、取り組んでいく優先課題の設定の参考になります。自校の状況、生徒の状況に応じて、取組の内容を選択し、組織的・継続的な取組とすることが大切です。

●項目数が多く、表では全体像をつかみにくいので、図でまとめました



II群の学校では、数学の発展的な指導には取り組んでいますが、数学の宿題や補充的な指導はI群に比べてまだ弱い状況です。国語の宿題も徹底されていません。授業と宿題の関係、発展的な指導と基礎基本の指導の関係とバランスなどを明確にして徹底する、ということが必要であると考えられます。

また、学習規律は維持された学級像・学校像、礼儀正しい生徒像などがうかがえますが、勉強に対する熱意は高くありません。教科指導を通して意欲を高めていくとともに、博物館、科学館、図書館の利用、読書など、視野を広げる活動の充実も必要です。

3

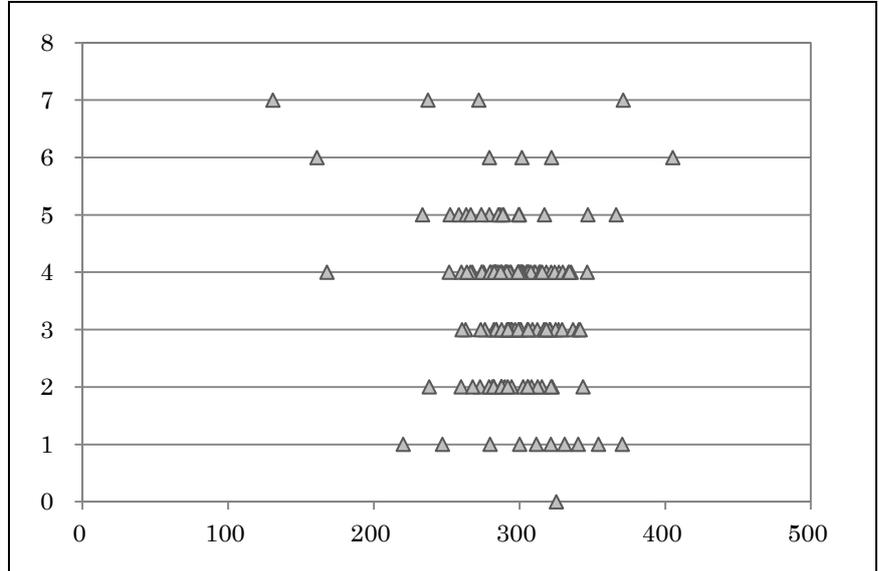
就学援助を受けている生徒の在籍割合との関係について

【関連：第3章P.35～、第10章P.126～】

就学援助を受けている生徒の在籍状況と、学力との関係を見るために、県内の各中学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

<選択肢>

- 1 在籍していない
- 2 5%未満
- 3 5%以上、10%未満
- 4 10%以上、20%未満
- 5 20%以上、30%未満
- 6 30%以上、50%未満
- 7 50%以上
- 0 無回答・不明



今回の調査では、就学援助を受けている生徒の在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関連は見られませんでした。

しかしながら、そうした中で、就学援助を受けている生徒の在籍数が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から探ってみます。

生徒の20%以上が就学援助を受けている学校（選択肢5～7を選択）は16校あり、そのうち、国語A・国語B・数学A・数学B・理科の合計が全国平均を超えている学校が3校ありました。これらをI群とし、16校の中で平均正答率の合計が低い方の3校をII群とします。

I群とII群の学校質問紙の回答状況の差がある質問を抽出し、同様の環境の中でどのような指導の違いがあるのかを見ると、チーム・ティーチングや家庭学習のきめ細かい指導、放課後や長期休業中の学習のサポート、授業の目標の明確化、ICT利活用等に差異があることがわかります。

(数字は選択肢)

番号	質問項目	群	回答状況		
(57)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、チーム・ティーチングによる指導を行いましたか	I群	1	1	1
		II群	5	5	5
(48)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか	I群	1	3	1
		II群	4	3	4
(87)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	I群	1	1	1
		II群	2	3	3
(97)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の	I群	2	1	2
		II群	2	4	4

	課題を除く) について、評価・指導しましたか				
(26)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	I 群	1	2	5
		II 群	4	4	4
(28)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか (実施した日数の累計)	I 群	1	1	2
		II 群	3	2	3
(29)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標 (めあて・ねらい) を示す活動を計画的に取り入れましたか	I 群	2	1	1
		II 群	2	3	3
(46)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術 (パソコン (タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す) を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習 (協働学習) や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	I 群	2	2	1
		II 群	3	3	3
(93)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか (国語/数学共通)	I 群	2	1	2
		II 群	3	3	3
(95)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題 (宿題) を与えましたか	I 群	2	1	3
		II 群	2	4	4
5教科区分の平均正答率の合計		I 群	302.1	317.2	322
		II 群	258.5	263.6	266.6

4

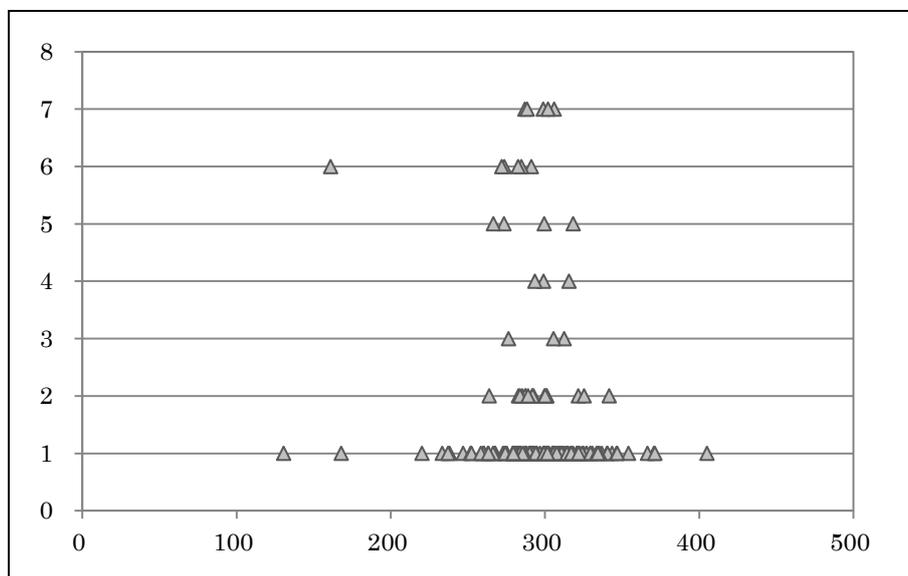
日本語指導が必要な生徒の在籍数との関係について

【関連：第3章P.37～、第10章P.123～】

日本語指導が必要な生徒の在籍状況と、学力との関係を見るために、県内の各中学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

<選択肢>

- 1 在籍していない
- 2 1人
- 3 2人
- 4 3人
- 5 4人
- 6 5～7人
- 7 8人以上
- 0 無回答・不明



今回の調査では、日本語指導が必要な生徒の在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関連は見られませんでした。

しかしながら、そうした中で、日本語指導が必要な生徒の在籍数が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から探ってみます。

複数名の日本語指導が必要な生徒がいる学校（選択肢3～7を選択）は21校あり、そのうち、国語A・国語B・数学A・数学B・理科の合計が全国平均を超えている学校が6校ありました。これらをI群とし、21校の中で平均正答率の合計が低い方の6校をII群とします。

I群とII群の学校質問紙の回答状況の差がある質問を抽出し、同様の環境の中でどのような指導の違いがあるのかを見ると、必ずしもまとまった傾向は見られませんでした。体験的な学習や読書、言語活動、個に応じた指導に関して差異が見られました。

(数字は選択肢)

番号	質問	群	回答状況					
(96)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	I群	2	1	1	2	1	1
		II群	3	1	1	3	4	1
(72)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	I群	3	1	2	1	1	1
		II群	1	3	2	2	4	2

(57)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、チーム・ティーチングによる指導を行いましたか	I 群	1	4	4	5	1	3
		II 群	4	5	3	5	5	1
(24)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか	I 群	1	1	1	1	1	1
		II 群	1	1	1	1	6	1
(77)	調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度に理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	I 群	1	1	1	1	1	1
		II 群	1	2	1	1	2	2
(99)	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	I 群	3	1	1	1	1	1
		II 群	3	2	1	1	3	1
(21)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	I 群	2	2	1	3	2	1
		II 群	1	3	3	2	3	2
5教科区分の平均正答率の合計		I 群	302.1	305.7	306.1	312.6	315.7	318.4
		II 群	161	266.6	272.1	273.5	273.8	276.4

## 第7章 中学校詳細分析～生徒質問紙～

1

### 生徒質問紙と教科に関する調査との関連

【関連：第1章P.5～、第4章P.39～】

「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の領域名を基本に分類しています。  
各領域では、教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目について以下に分析します。

#### ◆◆国語への関心◆◆

**「理由がわかるように書く」ということを常に意識できるような指導が大切です。**

#### 【関連項目】

番号	質問
(55)	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
(50)	国語の授業の内容はよく分かりますか

よく言われるように国語の能力は、各教科等の学習の基本ともなるものであり、質問番号(50)は全ての教科において関連が見られます。

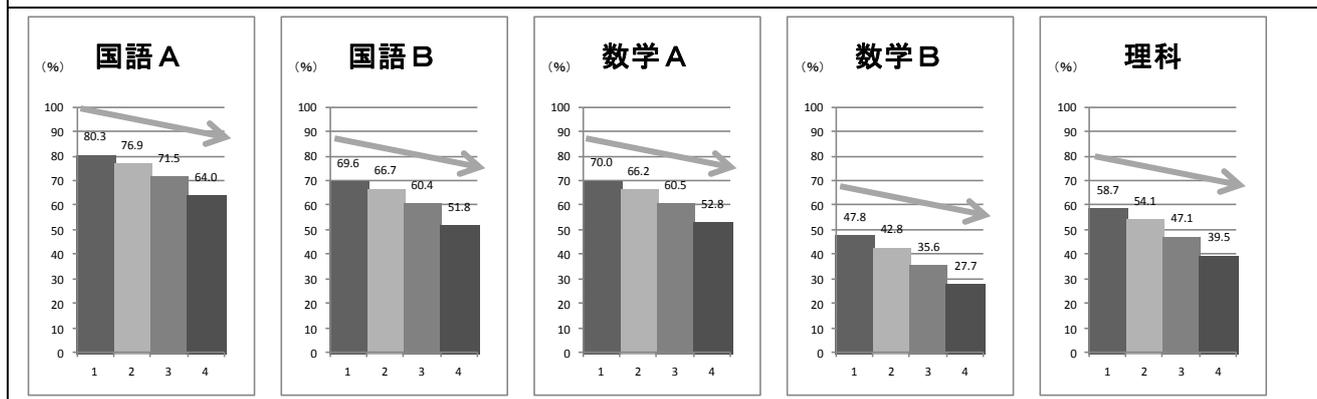
また、質問番号(55)は「判断してその理由を書くような問題」を解決できるような学習・練習ができていないかを聞いているもので、「国語B」「数学B」との関連が顕著に出ています。

理由を挙げて書く場合、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである。」などの表現についても指導する必要があります。また、普段から、理由や事例などを挙げながら、筋道を立てて話すことを意識させることも大切です。

#### 【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

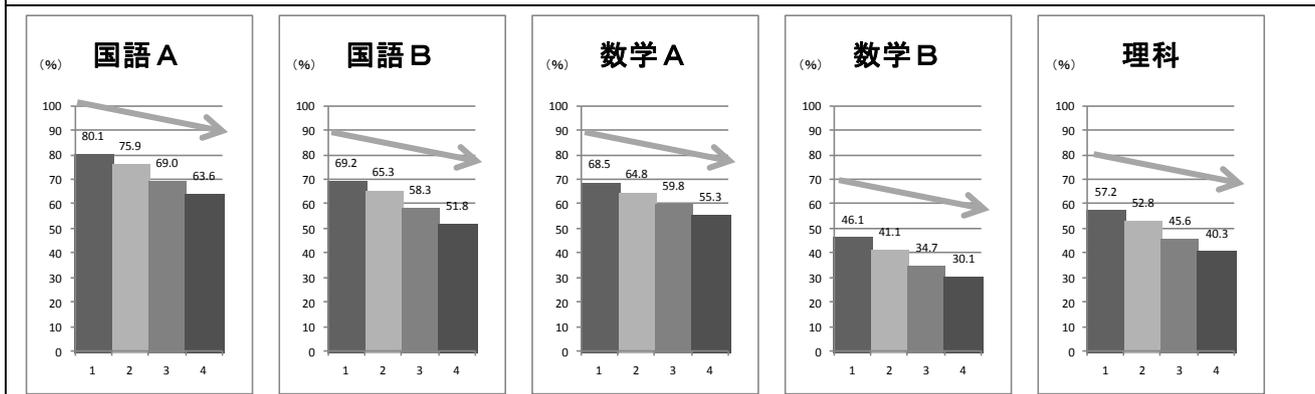
(55) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(50) 国語の授業の内容はよく分かりますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆数学への関心◆◆

いろいろな方法を考える意欲、「『根拠』を理解する」ことが重要です。

【関連項目】

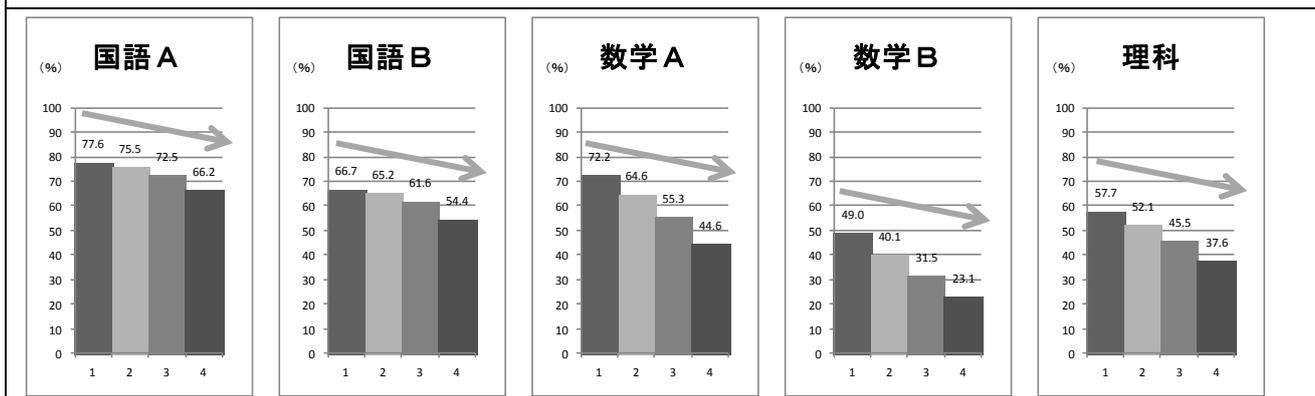
番号	質問
(60)	数学の授業の内容はよく分かりますか
(62)	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
(66)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか

数学科の学習では根拠を明らかにして論理的に考える力や課題を解決するためのプロセスを組み立て、実行する力を養っているという認識をもって指導し、それが生徒にも伝わるように工夫することが必要です。これらの力は国語科とも共通しており、他教科との関係も深くなっています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

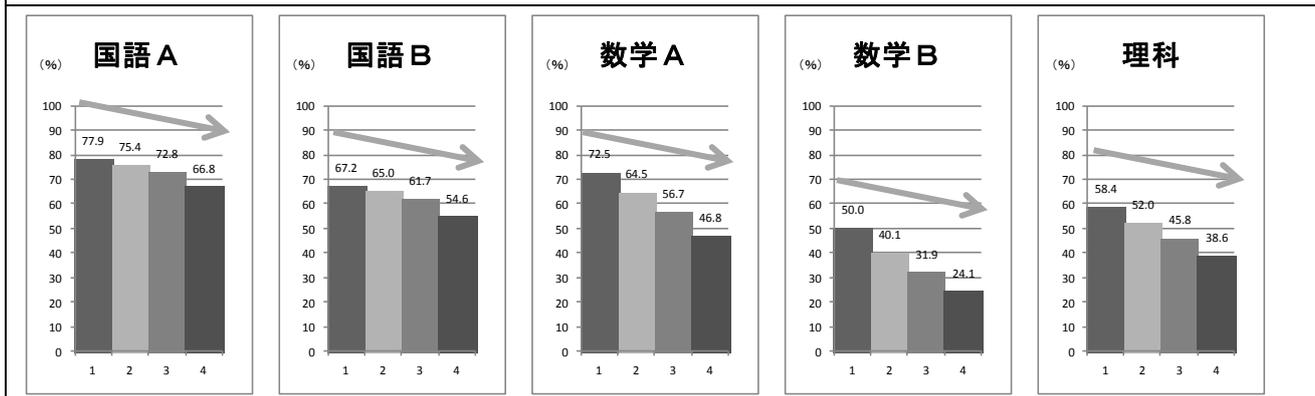
(60) 数学の授業の内容はよく分かりますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



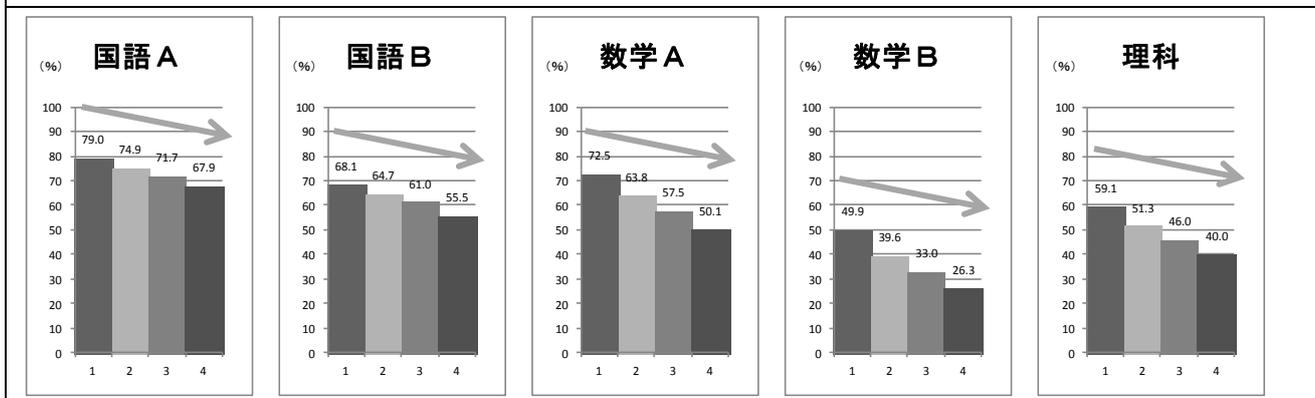
(62) 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(66) 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆理科への関心◆◆

観察、実験を充実させ、考えたことを生徒同士で交流する活動が大切です。

【関連項目】

番号	質問
(80)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか
(71)	理科の授業の内容はよく分かりますか
(76)	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか

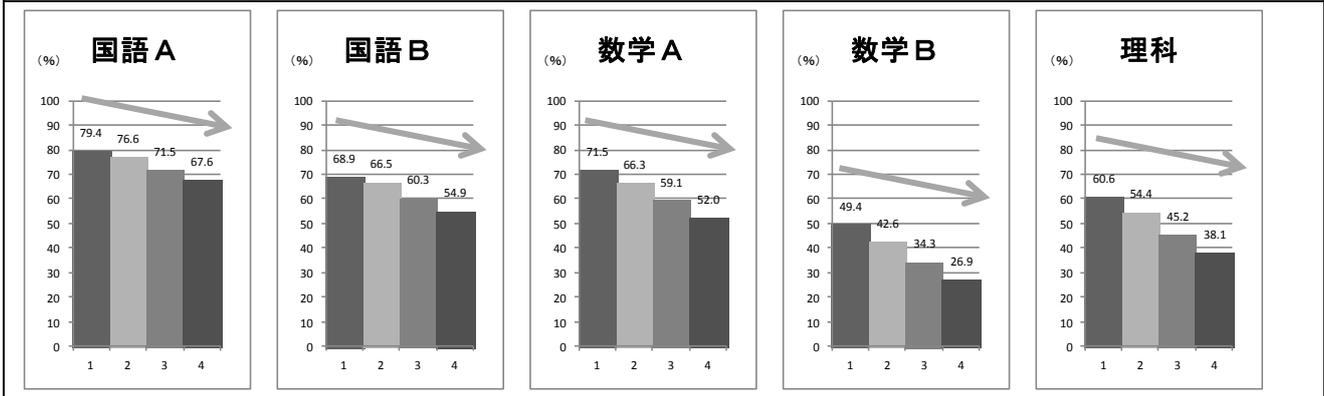
質問番号 (80) と平均正答率との関係から、観察、実験を通じて考察する力が数学、特に「数学B」とも関連していることがわかります。

観察、実験をグループで行って、グループでレポートを作成する、ということがよく行われますが、事前の仮説、方法、結果、考察をできるだけ個人個人が考えたうえでノートに書くようにし、それらを相互に発表し、考え方を学び合える場を設定することが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

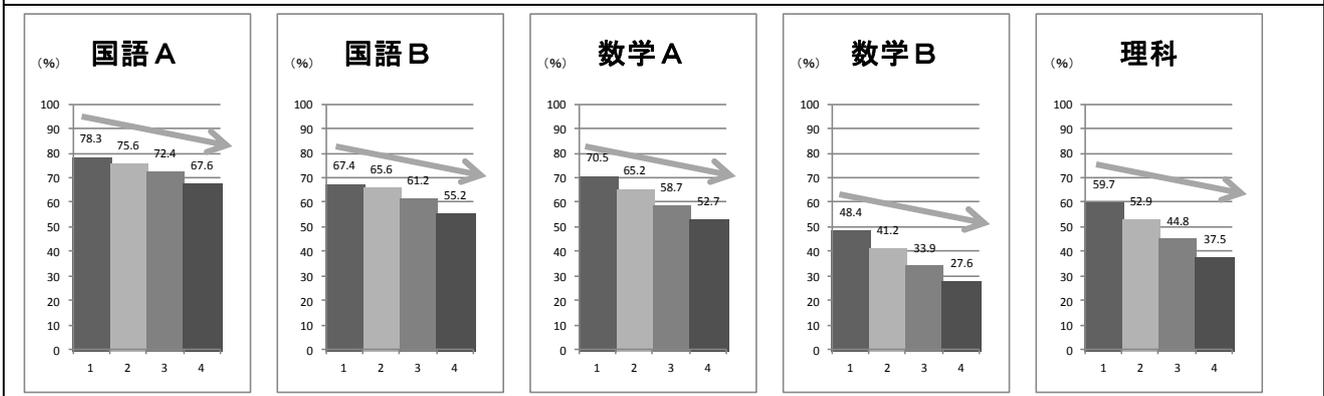
(80) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



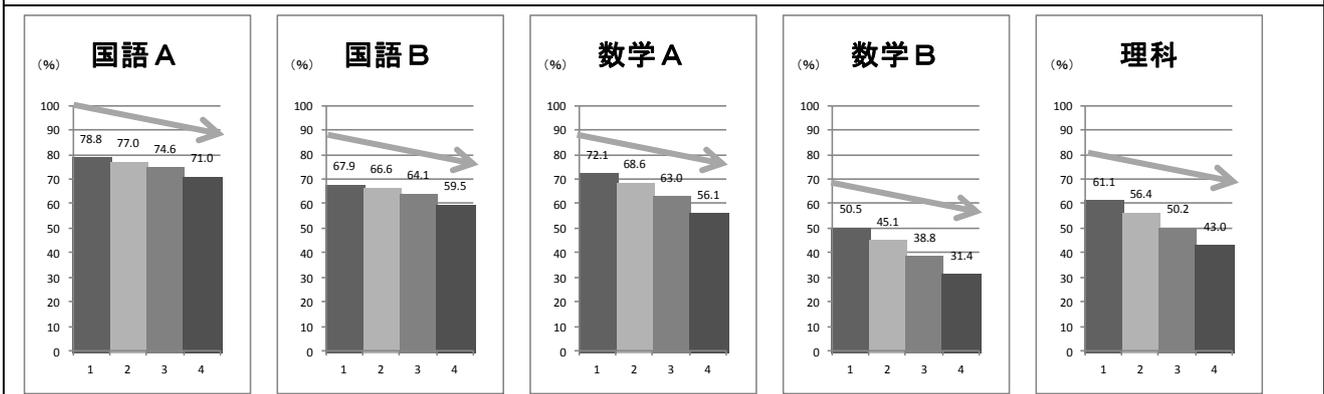
(71) 理科の授業の内容はよくわかりますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(76) 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆総合的な学習への関心◆◆

社会で求められる力と中学校で培う力の関連の可視化と主体的な学び方の獲得が大切です。

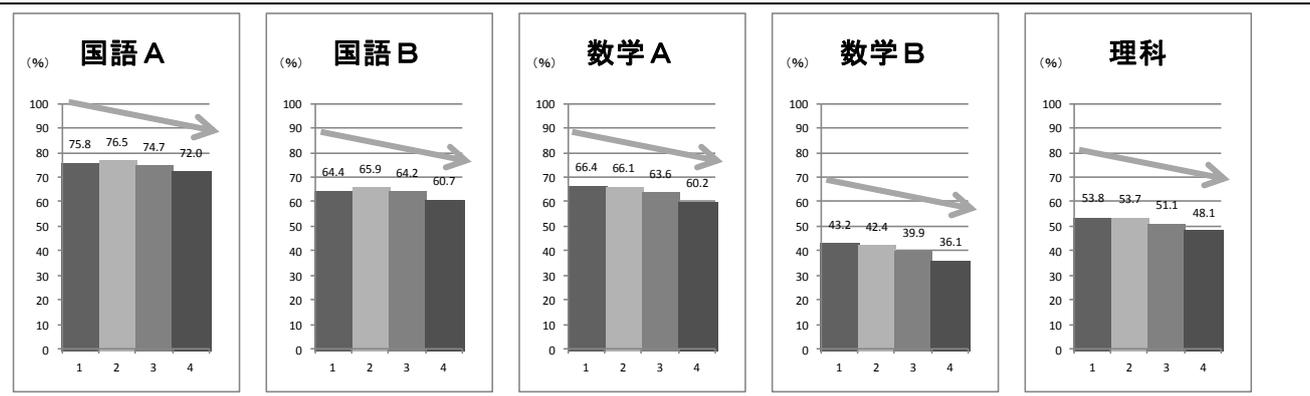
【関連項目】

番号	質問
(37)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
(36)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

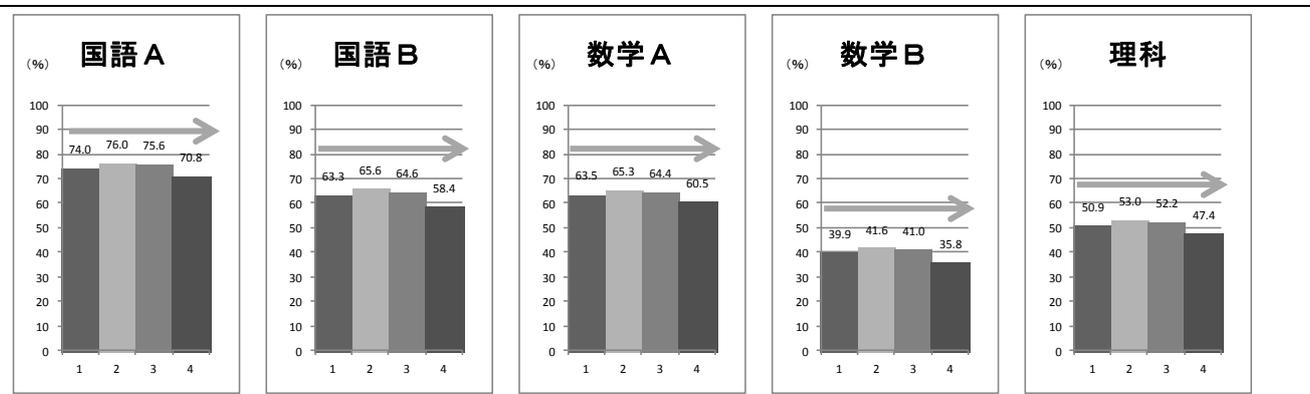
学校は子どもたちに力を付けて社会に送り出していくところです。「総合的な学習の時間」の中で社会で求められるどのような力を付けるのか、その力を付けるためにどのような活動を行うのかを明確にする必要があります。次期学習指導要領では、この考え方が各教科等にも広がっていき、どの教科でどのような力を付けるのかを明確にしていく方向で検討されています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

(37)「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか  
 (1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(36)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか  
 (1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆規範意識◆◆

心を育てることは全生徒にとって必要なことです。

【関連項目】

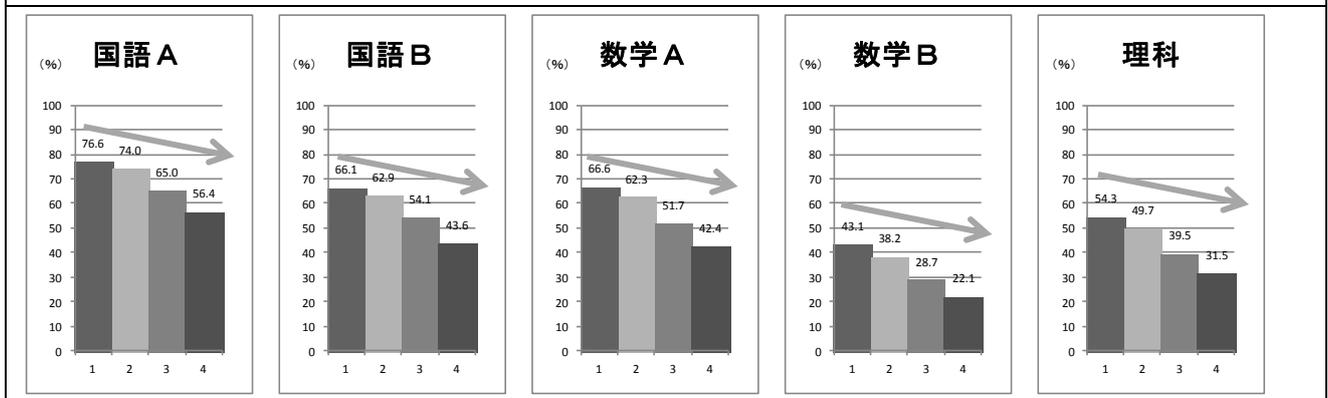
番号	質問
(32)	学校の規則を守っていますか
(33)	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか
(34)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

質問番号(33)や(34)では、質問番号(32)と違い、学力との関連は明確ではありません。学力に関係なく、全生徒の心が豊かになるように育てていくことが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

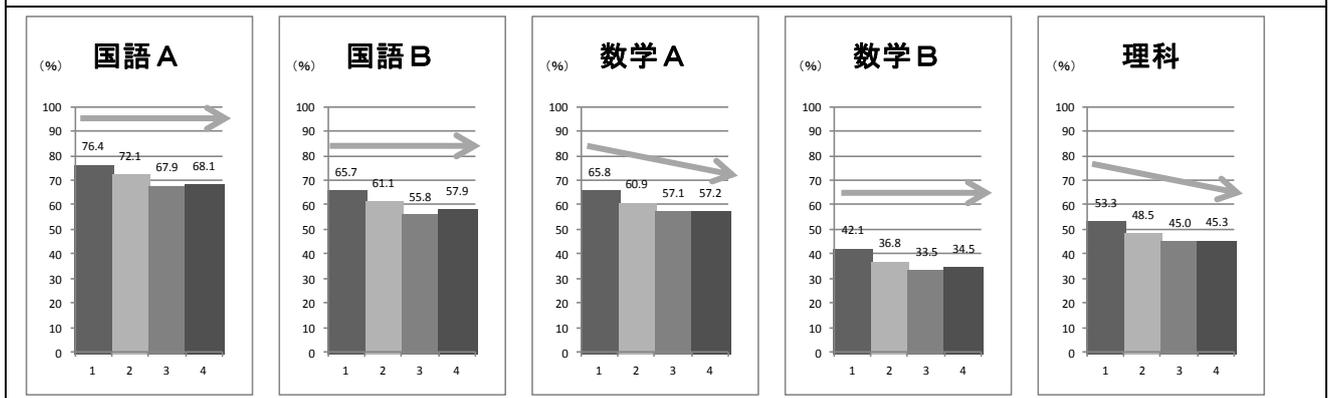
(32) 学校の規則を守っていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



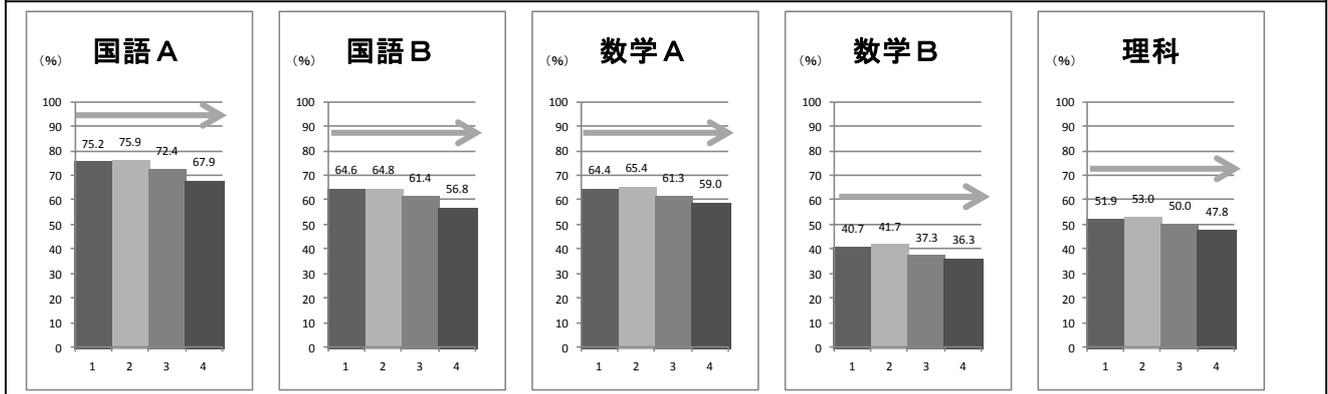
(33) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(34) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆自尊感情◆◆

全員が自己肯定感をもてるようなしかけづくりが大切です。

【関連項目】

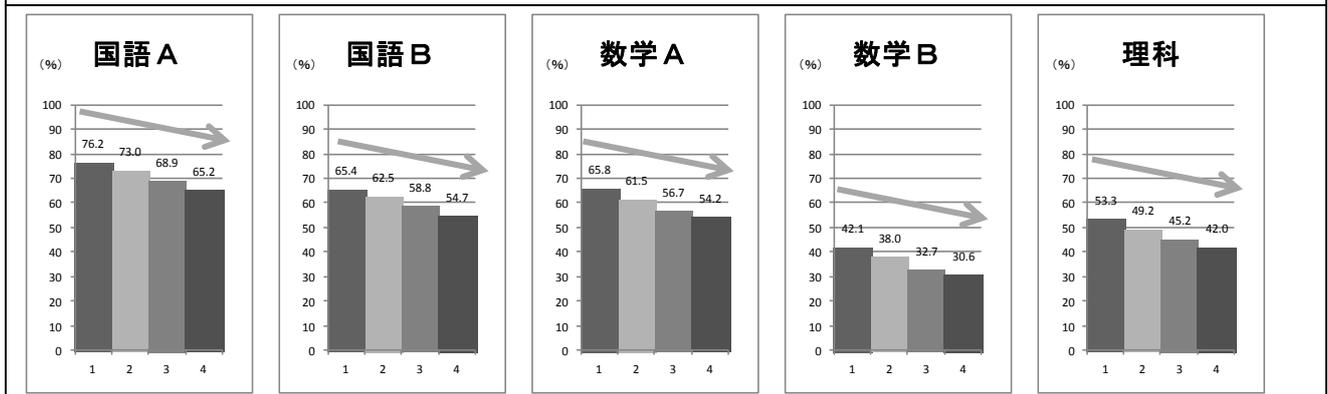
番号	質問
(4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
(6)	自分には、よいところがあると思いますか
(5)	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

質問番号(4)については全体的に平均正答率との関連が見られます。しかし質問番号(6)、(5)は選択肢1～3ではあまり差がなく、選択肢4を選んだ生徒の平均正答率が他の選択肢を選んだ生徒よりも低くなっています。全体としての自尊感情を高めることも大切ですが、一部の生徒については、個に応じた指導等が必要です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

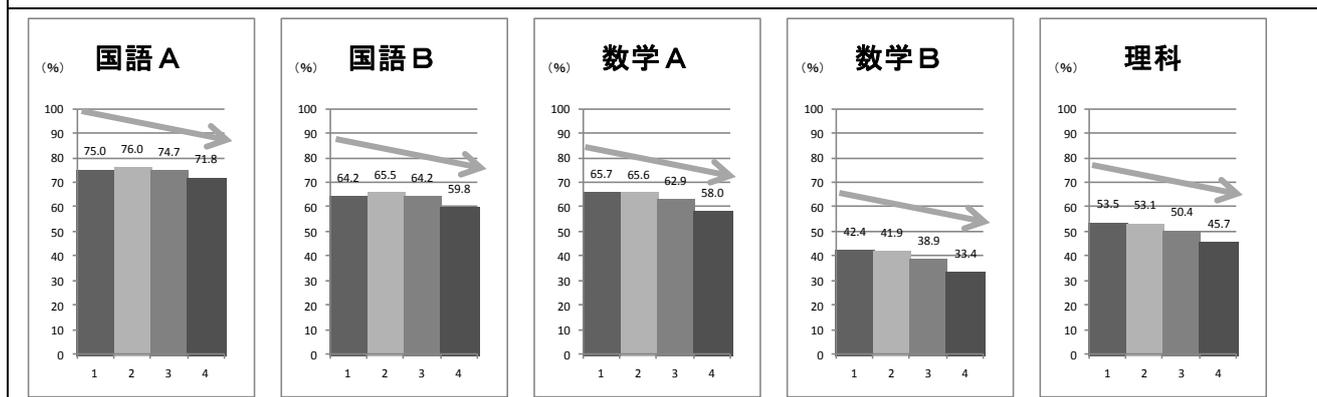
(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



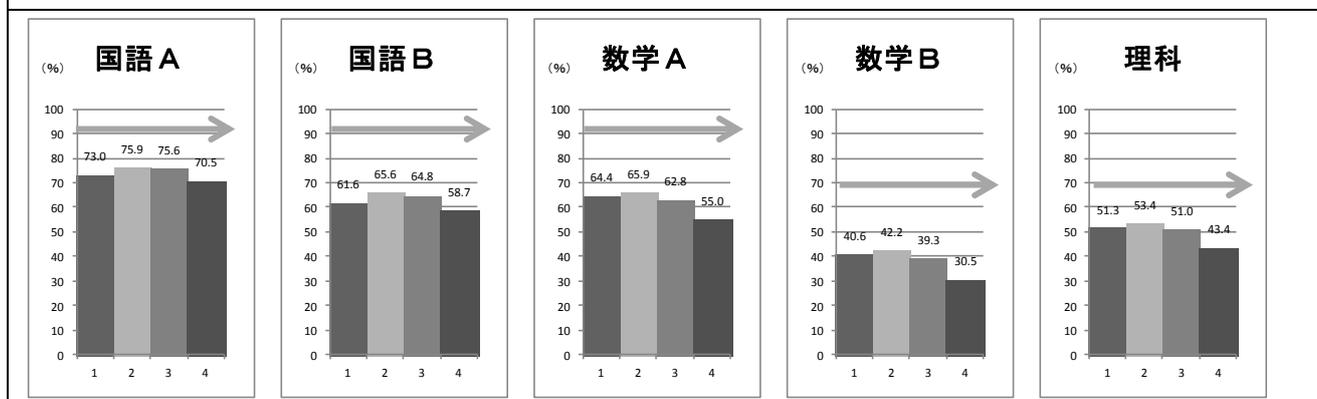
(6) 自分には、よいところがあると思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆言語活動・読解力◆◆

「自分の考えを発表する機会」の有無はどの教科とも関連しています。

【関連項目】

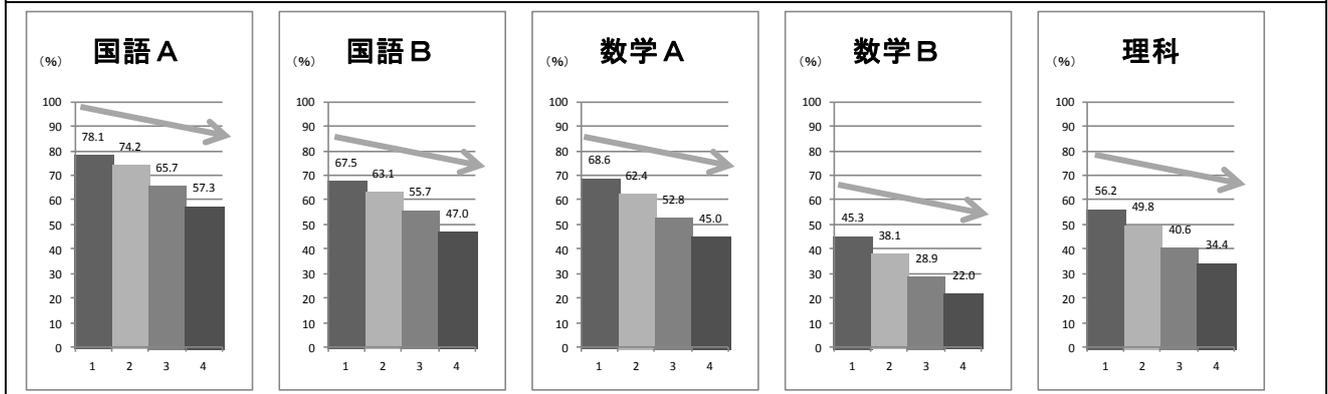
番号	質問
(38)	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

質問番号(38)はどの教科とも関連が深く、「発表の指導をした」ではなく一人ひとりの生徒に発表する機会が与えられていたか、という観点での見直しも必要です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

(38) 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆生活習慣◆◆

生活習慣が学習習慣の基盤。

【関連項目】

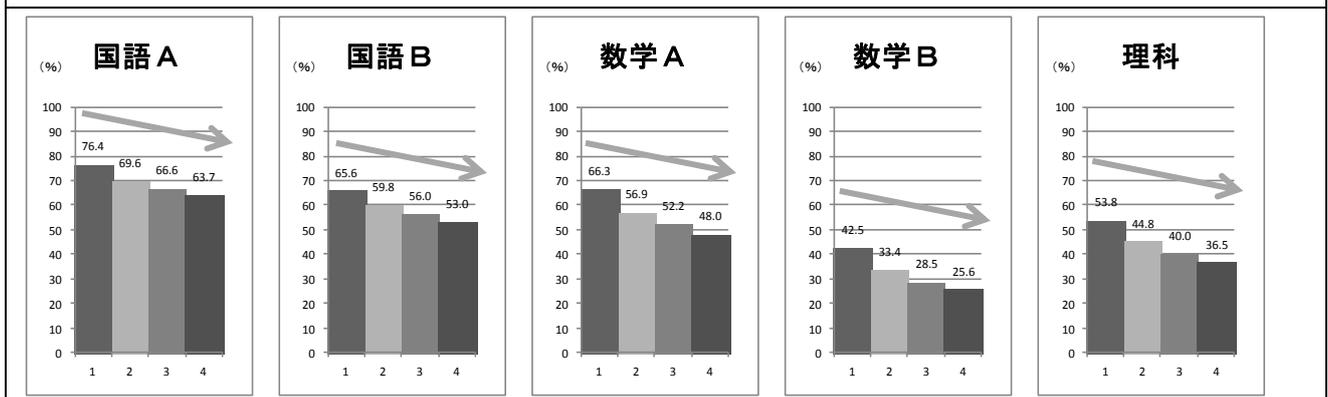
番号	質問
(1)	朝食を毎日食べていますか

生活習慣の安定が学力向上につながります。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

(1) 朝食を毎日食べていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆学習習慣1◆◆

自分で計画を立てて家庭学習ができるようになるための支援が大切です。

【関連項目】

番号	質問
(21)	家で、学校の宿題をしていますか
(20)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
(23)	家で、学校の授業の復習をしていますか

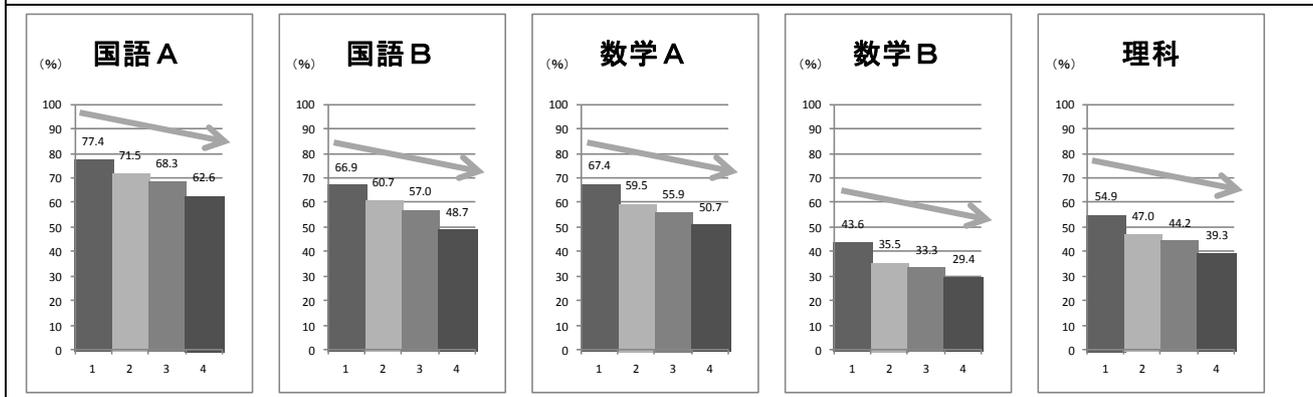
質問番号 (21)、(20)、(23) いずれも全ての教科との関連が見られます。

「自主的な勉強」は放任してはできるようになりません。学校として、どのように考えて計画を立てるかを教え、日々計画を立てる場と時間を設けることからスタートし、本当の意味での主体的な学びへと導いていくことが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

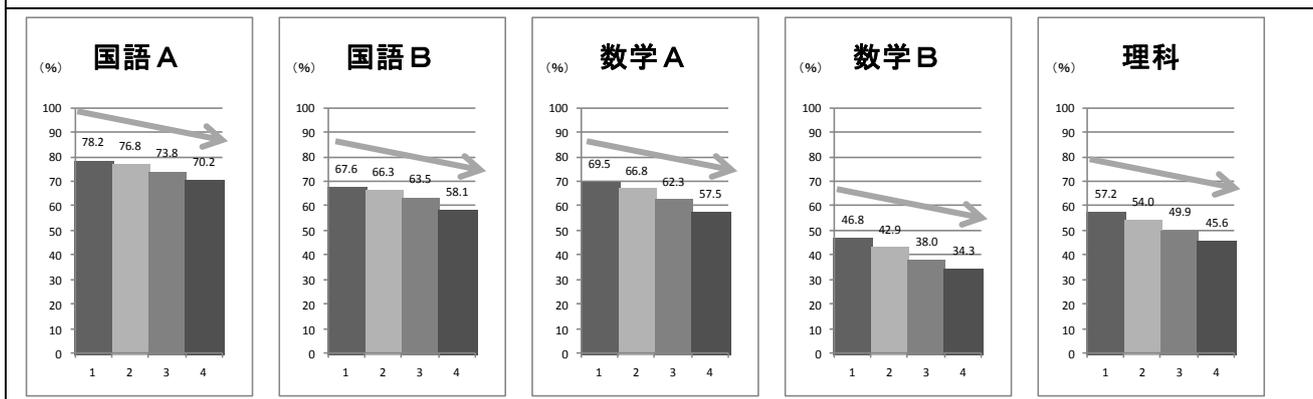
(21) 家で、学校の宿題をしていますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



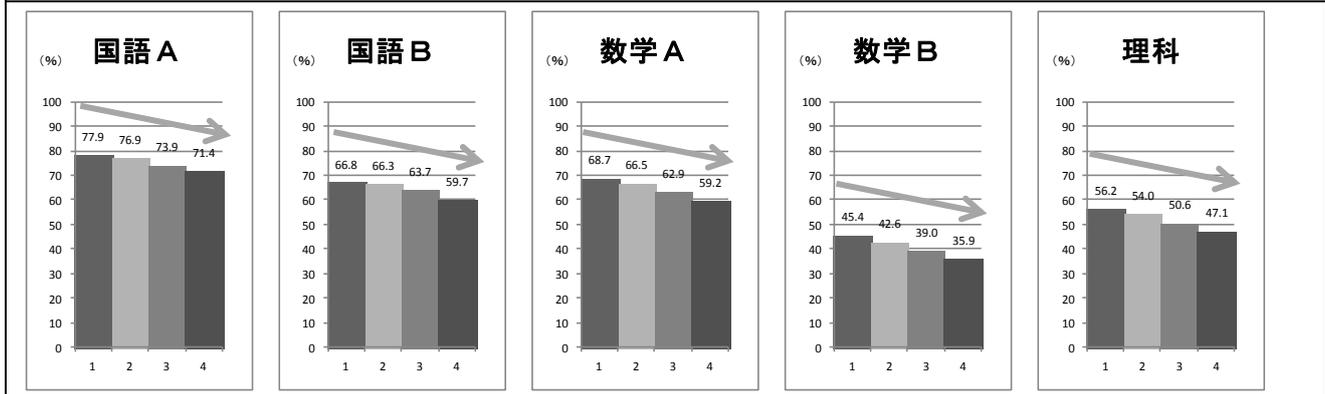
(20) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



(23) 家で、学校の授業の復習をしていますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



◆◆学習習慣2◆◆

土日も含めた家庭学習促進の働きかけをしましょう。各家庭でスマホルールづくりの会話をしましょう。

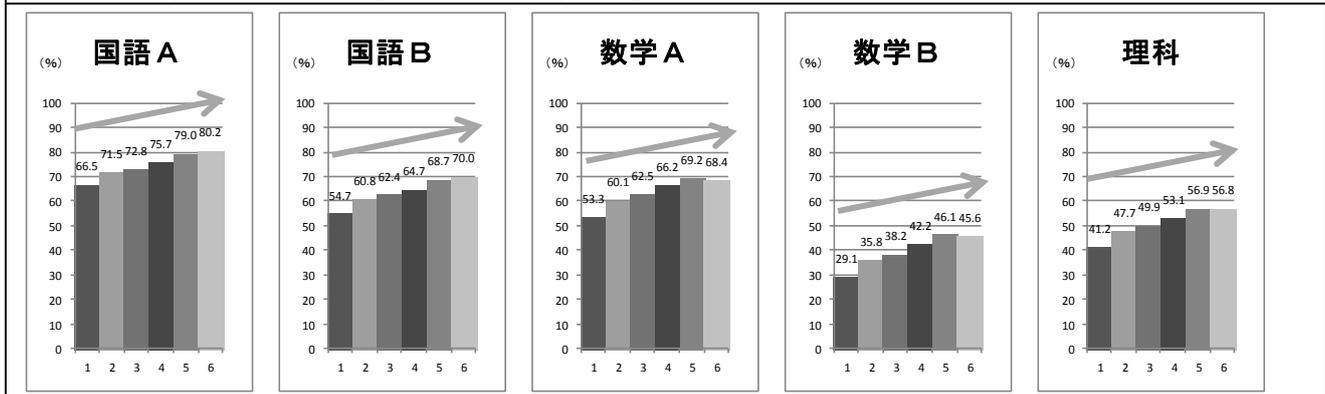
【関連項目】

番号	質問
(11)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか
(14)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
(12)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）
(13)	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

特に中学校では、スマホの使用時間の増加が全国にもまして著しく、このことが家庭での学習時間にも影響していると考えられます。家庭での時間の使い方は学校だけでは解決できない課題です。家庭への協力を求めるとともに、協力を求める際にも、自治体や学校が規則を決めて「守らせる」というやり方だけではなく、親子が話し合って自らルールをつくり、それを守る、という方法が増えてきています。

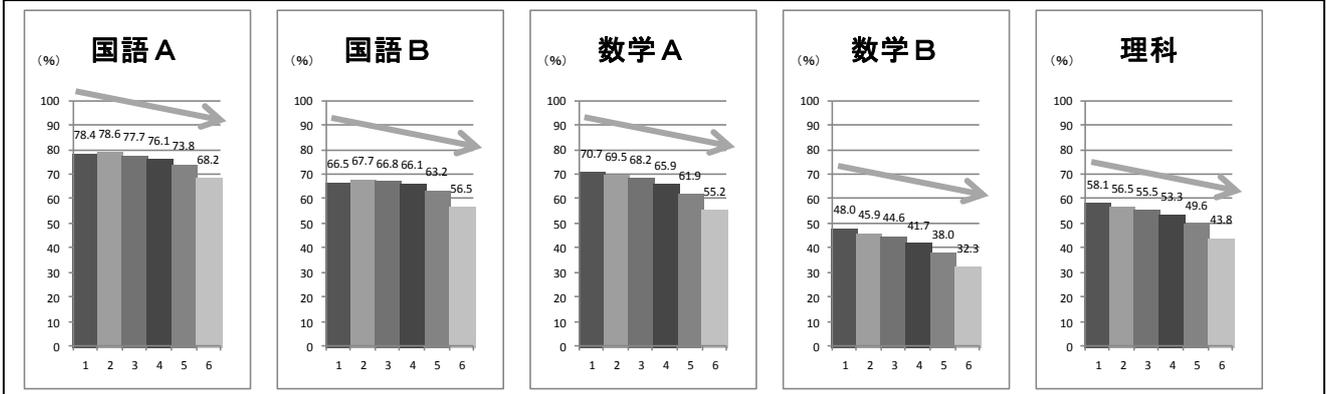
【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

(11) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか  
 (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない)



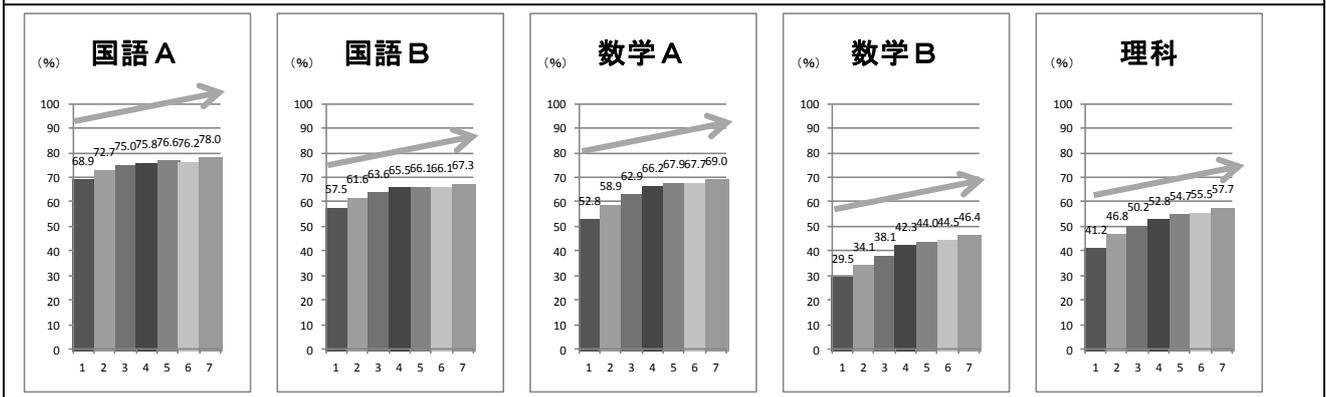
(14) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない)



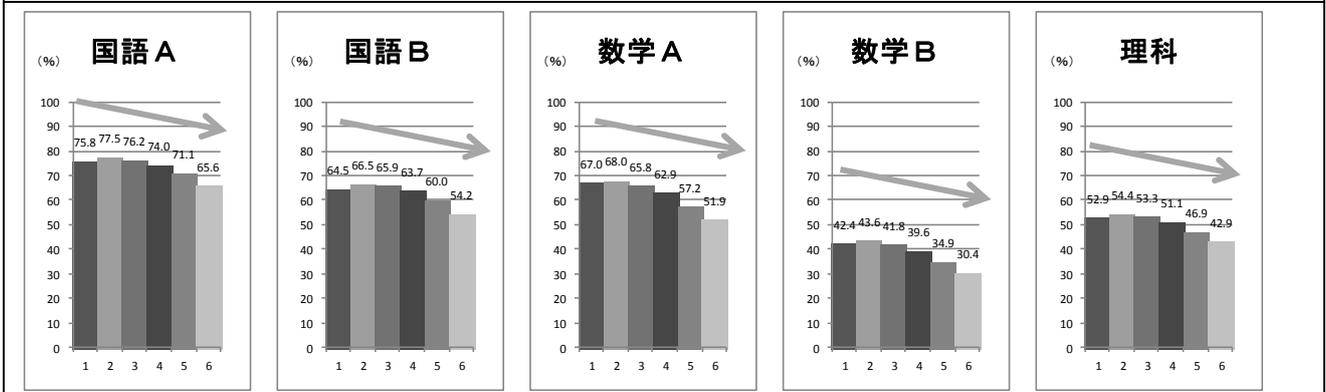
(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

- (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない  
4 1時間以上、2時間より少ない 5 30分以上、1時間より少ない 6 30分より少ない  
7 携帯電話やスマートフォンを持っていない)



(13) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- (1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない  
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない)



◆◆家庭・地域との関わり◆◆

**異世代間のコミュニケーションを活性化させましょう。**

【関連項目】

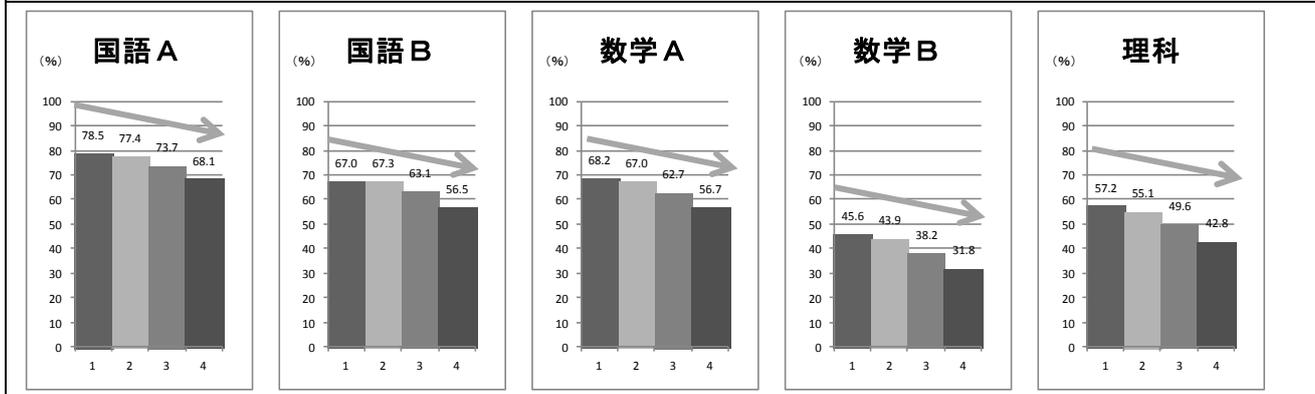
番号	質問
(28)	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか
(19)	家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか
(18)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか

質問番号(28)の地域や社会の出来事への関心は「数学B」や「理科」と関連が高いようです。また、コミュニケーションに関わる質問番号(18)は国語との関連が高いようです。保護者や地域の方々を含めた大人との会話で学べることもたくさんあります。学校支援ボランティア等の活動に生徒をうまく巻き込み、異世代間のコミュニケーションの活性化を図ることが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

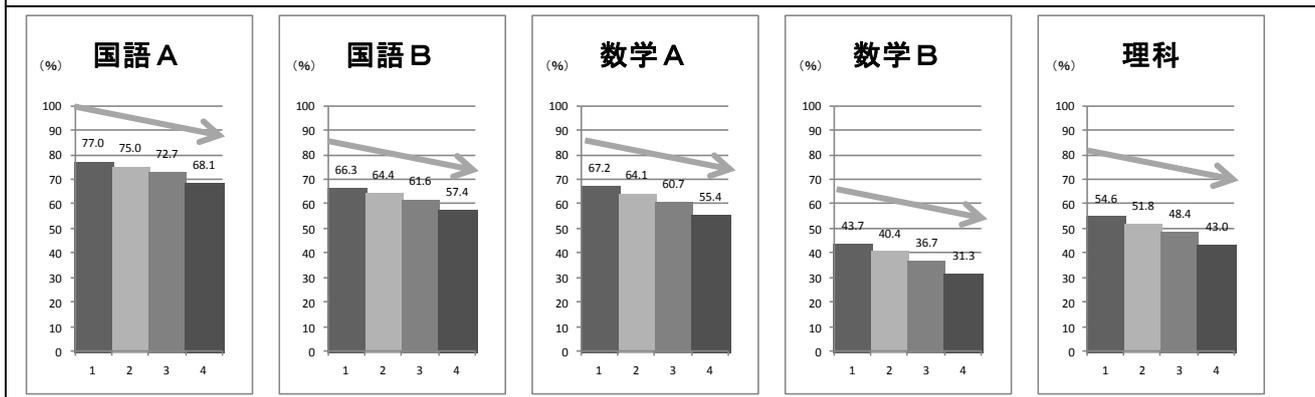
(28) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



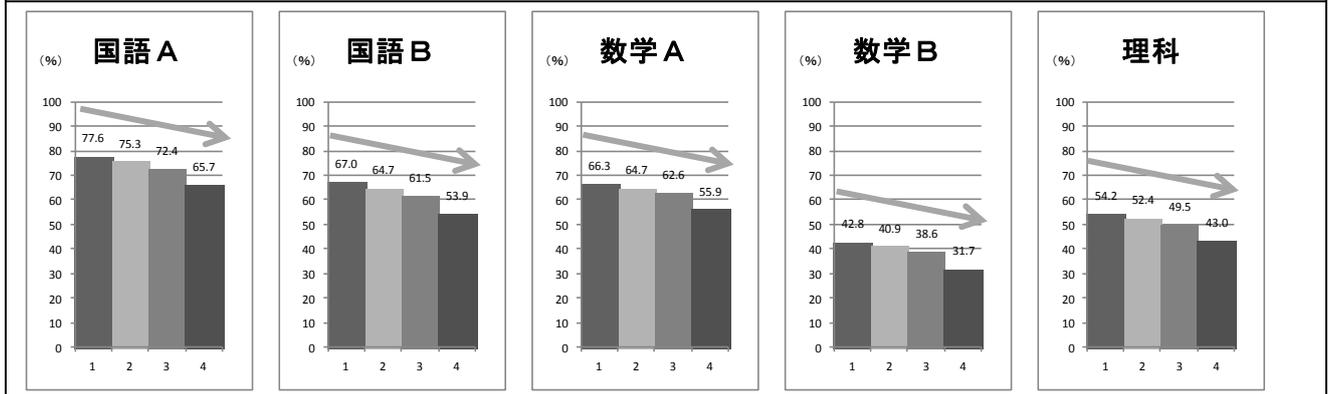
(19) 家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか

(1 よく来る 2 時々来る 3 あまり来ない 4 全く来ない)



(18) 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



◆◆学校での学び◆◆

学習に向かうには、協力し合える学級づくりが重要です。

【関連項目】

番号	質問
(26)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか
(41)	1、2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

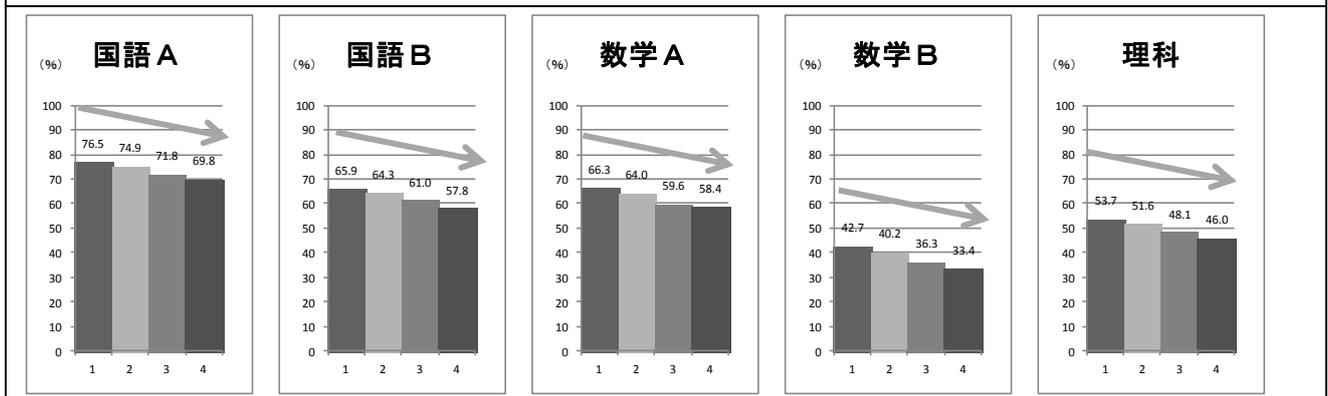
質問番号（26）と各教科の平均正答率の間には一定の関連が見られます。学習のベースには学級づくりがあります。学級担任、教科担任全員が協力して学級づくりを行っていくことが大切です。

質問番号（41）については目標の示し方、示すタイミング、示すだけでなく、その目標を常に意識させる手法など、工夫の余地があるようです。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

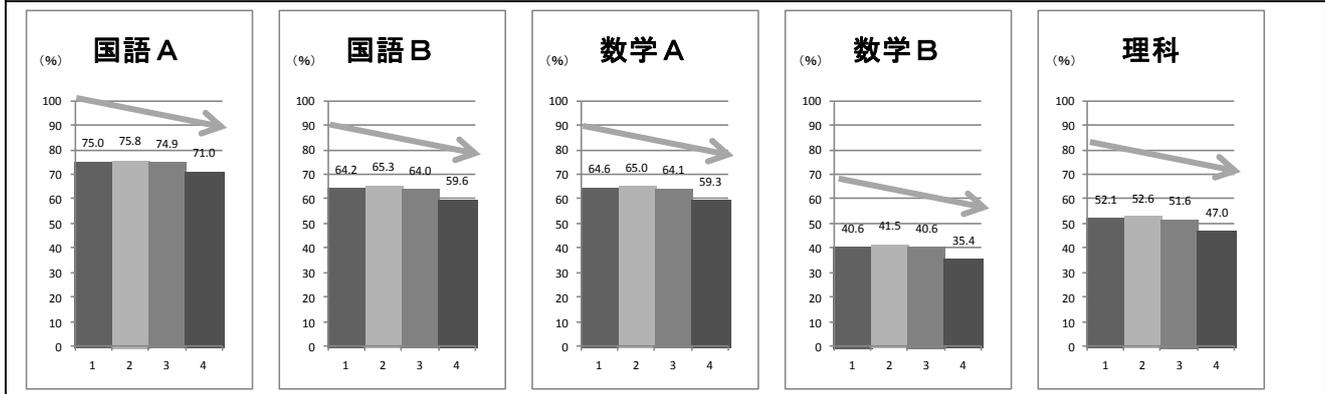
(26) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(41) 1、2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆解答への姿勢◆◆

調査実施に対する事前の生徒の心構えの形成が大切です。

【関連項目】

番号	質問
(57)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか
(68)	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか
(82)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

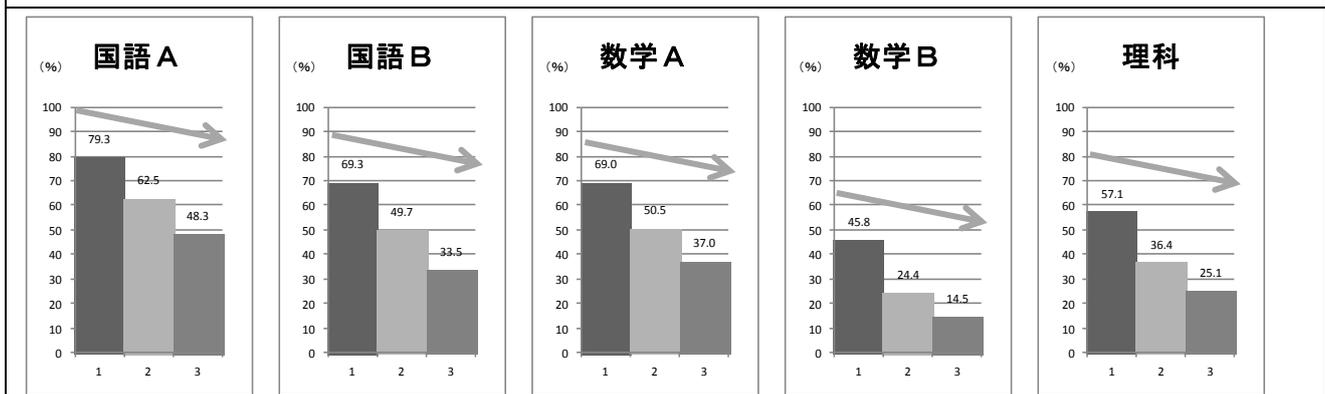
どの質問項目も全ての教科と明確な関連があることがわかります。教科に関係なく、調査問題に対して最後まで粘り強く取り組めるかということ、もっと言えば、何事にも粘り強く取り組むことができるか、ということが結果に反映されています。

また、担任等からの調査前の意義の説明や調査中の励ましの有無にも影響があると考えられます。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

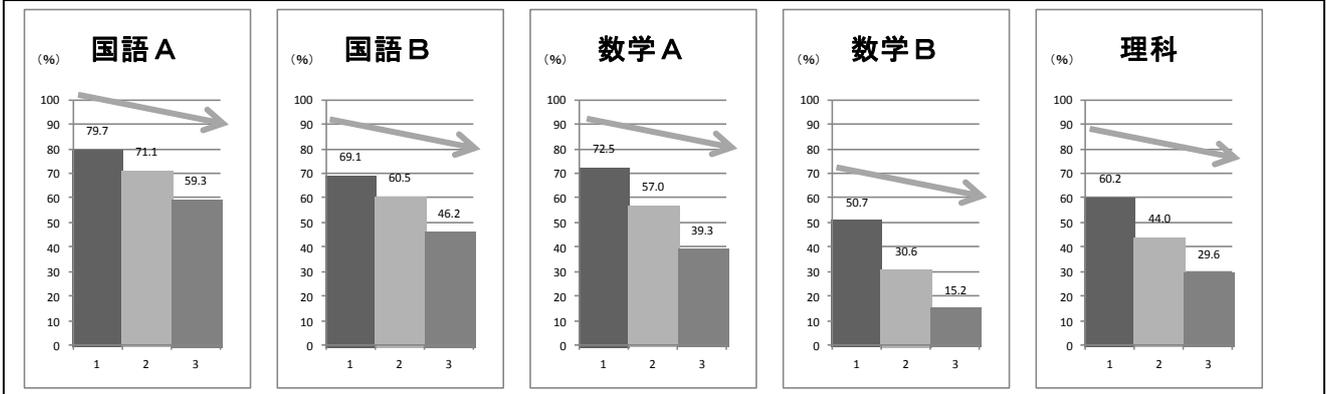
(57) 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

(1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3 書く問題は全く解答しなかった)



(68) 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか

- (1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた 3 書く問題は全く解答しなかった)



(82) 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか

- (1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた 3 書く問題は全く解答しなかった)

